1. 当事務及び事業に関	する基本情報											
第2	第2 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関	52 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置(以下「業務の質の向上」と略記する。)										
業務に関連する政策・施	食料・農業・農村基本計画		独立行政法人家畜改良センター法第 11 条、家畜改良増殖法第 3 条の 4 ,同									
策	家畜改良増殖目標・鶏の改良増殖目標	当該事業実施に係る根拠	法 35 条の 2 第 1 項・第 3 項、種苗法第 6 3 条第 1 項、遺伝子組換え生物等									
	酪農及び肉用牛生産の近代化を図るための基本方針		の使用等の規制による生物の多様性の確保に関する法律第32条第1項・									
			第3項、牛の個体識別のための情報の管理及び伝達に関する特別措置法第									
			20条、牛の個体識別のための情報の管理及び伝達に関する特別措置法施									
			行令第5条									
当該項目の重要度、難易		関連する政策評価・行政事業	行政事業レビューシート事業番号:0028									
度		レビュー	行政事業レビューシート事業番号:0035									
			行政事業レビューシート事業番号:0279									

2	. 主要な経年テ	データ												
	② 主要なアウ	カトプット(フ	アウトカム)情報				②主要なインプット情	報(財務情報	及び人員に関	引する情報、法	人全体)注			
	指標等	達成目標	基準値	X1年度	X2年度	X3年度	X4年度	X5年度		H23 年度	H24 年度	H25 年度	H26 年度	H27 年度
									予算額 (千円)	8,682,884	8,967,108	8,532,098	8,493,261	
									決算額 (千円)	9,127,037	8,572,227	8,651,460	9,160,191	
									経常費用 (千円)	8,923,393	8,388,109	8,227,741	8,675,680	
									経常利益 (千円)	8,826,155	8,412,573	8,168,306	8,670,619	
									行政サービス実施コスト(千円)	8,712,060	8,206,327	7,612,425	7,546,420	
							\		従事人員数	991	981	972	966	

3.	各事業年度の	業務に係る目標、	計画、業務実統	責、年度評価に係る自己評価及	ひ主務大臣による評価								
	中期目標	中期計画	年度計画	主な評価指標	法人の業務実績	・自己評	価	主務大臣による評価					
					業務実績		自己評価						
	第3 国民に	第2 国民に対	第2 国民に対	指標=「中項目の項目数×2」	<主要な業務実績>		<評定と根拠>	評定 B					
	対して提供す	して提供するサ	して提供するサ	(満点)に対する「各中項目の点	○家畜改良及び飼養管理の改善	2/2(B)	$\lfloor B floor$	<評定に至った理由>					
	るサービスそ	ービスその他の	ービスその他の	数の合計値」(合計点)の比率	○飼料作物の増殖に必要な種苗		満点:16P(中	下記のとおり、下位の評価項目である中項目の	合計点がB評定の判				
	の他の業務の	業務の質の向上	業務の質の向上	各中項目の評価点数の区分	の生産及び供給	2/2(B)	項目8×2P)	定基準内(満点×8/10≦合計点<12/10)であったため。				
	質の向上に関	に関する目標を	に関する目標を	は以下のとおりとする。	○飼料作物の種苗の検査	2/2(B)	合計:16P	満 点:16点(中項目8×2点)					
	する目標を達	達成するために	達成するために	S評価:4点、A評価:3点、	○調査研究 2/2(B)		16P/16P	合計点:16点=2点×8					
	成するために	とるべき措置	とるべき措置	B評価:2点、C評価:1点、	○講習及び指導 2/2(B)		= 1.0	16点/16点=1.0 (10/10)					
	とるべき措置	<以下略>	<以下略>	D評価: 0点	○家畜改良増殖法に基づく検査等	2/2(B)	(10/10)	○家畜改良及び飼養管理の改善					
	<以下略>			A:満点×12/10≦合計点	○牛の個体識別のための情報の管			○飼料作物の増殖に必要な種苗の生産及び供給	2点(B)				
				B:満点×8/10≦合計点<満	理及び伝達に関する特別措置法			○飼料作物の種苗の検査	2点(B)				
				点×12/10	に基づく業務	2/2(B)		○調査研究	2点(B)				
				C:満点×5/10≦合計点<満	○センターの人材・資源を活用し			○講習及び指導	2点(B)				
				点×8/10	た外部支援	2/2(B)		○家畜改良増殖法に基づく検査等	2点(B)				
				D:合計点≦満点×5/10				○牛の個体識別のための情報の管理及び伝達に	2点(B)				
								関する特別措置法に基づく業務	2点(B)				
								○センターの人材・資源を活用し外部支援	2点(B)				
								合 計 点	16点(B)				

1. 当事務及び事業に関	する基本情報		
第2-1	第2 業務の質の向上 1 家畜改良及び飼養管理の改善		
業務に関連する政策・施	食料・農業・農村基本計画、家畜改良増殖目標、酪農及び肉用牛生	当該事業実施に係る根拠	独立行政法人家畜改良センター法第11条第1項第1号
策	産の近代化を図るための基本方針		家畜改良増殖法第3条の4
当該項目の重要度、難易		関連する政策評価・行政事業	行政事業レビューシート事業番号:0028
度		レビュー	行政事業レビューシート事業番号:0035

. 主要な経年ラ	データ												
①主要なアウ	ァ トプット(ア	プウトカム)	情報					②主要なインプット情	報(財務情報	及び人員に関	引する情報、法	人全体)注	
指標等	達成目標	基準値	X1年度	X2年度	X3年度	X4年度	X5年度		H23 年度	H24 年度	H25 年度	H26 年度	H27 年度
								予算額 (千円)	8,682,884	8,967,108	8,532,098	8,493,261	
								決算額 (千円)	9,127,037	8,572,227	8,651,460	9,160,191	
								経常費用 (千円)	8,923,393	8,388,109	8,227,741	8,675,680	
								経常利益 (千円)	8,826,155	8,412,573	8,168,306	8,670,619	
								行政サービス実施コスト (千円)	8,712,060	8,206,327	7,612,425	7,546,420	
								従事人員数	991	981	972	966	
	\	\	\	\	\	\		(うち常勤職員)	(807)	(790)	(785)	(765)	

3.	各事業年度の業務に	に係る目標、計画、	業務実績、年度評	価に係る自己評価及び主務大臣	による評価			
	中期目標	中期計画	年度計画	主な評価指標	法人の業務	5実績・自己評価	主務大臣による評価	
					業務実績	自己評価		
	1家畜改良及び飼養	1 家畜改良及び	1 家畜改良及び	指標=「小項目の項目数×2」	◇乳用牛 2/2(B)	<評定と根拠>	評定B	
	管理の改善など	飼養管理の改善等	飼養管理の改善等	(満点)に対する「各小項目の	◇肉用牛 2/2(B)	ГВЈ	<評定に至った理由>	
	<以下略>	<以下略>	<以下略>	点数の合計値」(合計点)の比率	◇豚 2/2(B)	満点:18P(小項目9×2P)	下記のとおり、下位の評価項目である小項目の	合計点がB評定の
				各小項目の評価点数の区分は	◇鶏 2/2(B)	合計:17P	判定基準内(満点×8/10≦合計点<12/1	0)であったため。
				以下のとおりとする。	◇馬 2/2(B)	17 P/18 P = 0.94	満 点:18点(小項目9×2点)	
				S評価:4点、A評価:3点、	◇めん羊・山羊 2/2(B)	(9.4/10)	合計点:17点=2点×8+1点	
				B評価:2点、C評価:1点、	◇家畜の飼養管理の改善		17点/18点=0.94 (9.4/10)	
				D評価: 0点	2/2(B)			
					◇家畜伝染性疾病に対す		◇乳用牛	2点(B)
				A:満点×12/10≦合計点	るリスク管理の強化		◇肉用牛	2点(B)
				B:満点×8/10≦合計点<	1/2(C)		◇豚	2点(B)
				満点×12/10	◇家畜の遺伝資源の保存		◇鶏	2点(B)
				C:満点×5/10≦合計点<	2/2(B)		◇馬	2点(B)
				満点×8/10			◇めん羊・山羊	2点(B)
				D:合計点≦満点×5/10			◇家畜の飼養管理の改善	2点(B)
							◇家畜伝染性疾病に対するリスク管理の強化	<u> 1点(C)</u>
							◇家畜の遺伝資源の保存	2点(B)
							合計点	17点

1. 当事務及び事業に関	する基本情報		
第2-1-(1)	第2 業務の質の向上 1 家畜改良及び飼養管理の改善 (1)	乳用牛	
業務に関連する政策・施	食料・農業・農村基本計画、家畜改良増殖目標、酪農及び肉用牛生	当該事業実施に係る根拠	独立行政法人家畜改良センター法第11条第1項第1号
策	産の近代化を図るための基本方針		家畜改良増殖法第3条の4
当該項目の重要度、難易		関連する政策評価・行政事業	行政事業レビューシート事業番号:0028
度		レビュー	行政事業レビューシート事業番号:0035

①主要なアウトプット(アウトカム)情報 ②主要なインプット情報(財務情報及び人員に関する情報、法人全体)注	
指標等 達成目標 基準値 X1年度 X2年度 X3年度 X4年度 X5年度 H23年度 H24年度 H25年度 H26年度 H26年度	H27 年度
予算額(千円) 8,682,884 8,967,108 8,532,098 8,493,261	
行政サービス実施コスト(千円) 8,712,060 8,206,327 7,612,425 7,546,420	
(うち常勤職員) (807) (790) (785) (765)	

3.	各事業年度の業務に係る目標	標、計画、業務実績、年度評価	「に係る自己評	評価及び主務大臣による評価	H				
	中期目標	中期計画	年度計画	主な評価指標	法人の業務実績	・自己語	评価	主務大臣による評価	
					業務実績		自己評価		
	酪農経営における生産性向上	(1) 乳用牛	(1) 乳用牛	指標=「細項目の項目数	□全国的乳用牛の改良推進	2/2(B)	<評定と根拠>	評定B	
	に資するため、センターは乳用	酪農経営における生産性向上に	<以下略>	×2」(満点)に対する「各	□後代検定の推進	2/2(B)	ГВЈ	<評定に至った理由>	
	牛の生涯生産性の向上を図る。	資するため、センターは乳用牛の		細項目の点数の合計値」(合	□遺伝的能力の評価・公表	2/2(B)	満点:24P(細項	下記のとおり、下位の評価項目である	細項目の合計
	具体的には、センターが自ら泌	生涯生産性の向上を図る。具体的		計点) の比率	□総合指数	2/2(B)	目 1 2×2 P)	点がB評定の判定基準内(満点×8/	/10≦合計点
	乳持続性の高い種畜等を生産	には、センターが自ら泌乳持続性		各細項目の評価点数の区	□評価手法の改善	2/2(B)		< 1 2/1 0) であったため。	
	し、必要に応じて供給を行うと	の高い種畜等を生産し、必要に応		分は以下のとおりとする。	□ジャージー種の遺伝的能力の		合計:24P	満 点:24点(小項目12×2点)	
	ともに、泌乳持続性等を反映し	じて供給を行うとともに、泌乳持		S評価:4点、A評価:	評価の公表	2/2(B)		合計点:25点=2点×11+3点	
	た新たな総合指数に基づいて全	続性等を反映した新たな総合指数		3点、B評価:2点、C評	□ブラウンスイス種の遺伝能力		24P/24P	13点/12点=1.04(10.4/	(10)
	国同一基準による遺伝的能力評	に基づいて全国同一基準による遺		価:1点、D評価:0点	評価	2/2(B)	= 1.0 (10/10)		
	価を実施し、関係者にその結果	伝的能力評価を実施し、関係者に			□優良な候補種雄牛等の生産・			□全国的乳用牛の改良推進	2点(B)
	を周知することで、泌乳曲線を	その結果を周知することで、泌乳		A:満点×12/10≦	供給	2/2(B)		□後代検定の推進	2点(B)
	平準化させた泌乳持続性が高い	曲線を平準化させた泌乳持続性が		合計点	□SNP情報の活用	2/2(B)		□遺伝的能力の評価・公表	2点(B)
	乳用牛への改良を進めつつ、引	高い乳用牛への改良を進めつつ、		B:満点×8/10≦合計点	□泌乳持続性に優れる改良用雌			□総合指数	2点(B)
	き続き泌乳能力や体型、飼料利	引き続き泌乳能力や体型、飼料利		<満点×12/10	牛の作出	2/2(B)		□評価手法の改善	2点(B)
	用性の向上及び繁殖性・抗病性	用性の向上及び繁殖性・抗病性の		C:満点×5/10≦合計点	□泌乳能力に優れる改良用雌牛			□ジャージー種の遺伝的能力の評価の公	表 2点(B)
	の全国的な改良を進める。併せ	全国的な改良を進める。併せて、		<満点×8/10	の生産	2/2(B)		□ブラウンスイス種の遺伝能力 評価	i 2点(B)
	て、ジャージー種及びブラウン	ジャージー種及びブラウンスイス		D:合計点≦満点×5/10	□候補種雄牛の待機業務終了	2/2(B)		□優良な候補種雄牛等の生産・供給	2点(B)
	スイス種といった多様な品種に	種といった多様な品種について遺						□SNP情報の活用	2点(B)
	ついて遺伝的能力評価等によっ	伝的能力評価等によっての改良を						□泌乳持続性に優れる改良用雌牛の化	作出 2点(B)
	ての改良を推進する。	推進する。						□泌乳能力に優れる改良用雌の生産	3点(A)
	<以下略>	<以下略>						□候補種雄牛の待機業務終了	2点(B)
								合 計 ,	点 25点

1. 当事務及び事業に関	する基本情報		
第2-1-(1)-ア	第2 業務の質の向上 1 家畜改良及び飼養管理の改善 (1)	乳用牛 ア 全国的な乳用牛の	收良推進
業務に関連する政策・施	食料・農業・農村基本計画、家畜改良増殖目標、酪農及び肉用牛生	当該事業実施に係る根拠	独立行政法人家畜改良センター法第11条第1項第1号
策	産の近代化を図るための基本方針		家畜改良増殖法第3条の4
当該項目の重要度、難易		関連する政策評価・行政事業	行政事業レビューシート事業番号:0028
度		レビュー	行政事業レビューシート事業番号:0035

2.	主要な経年ラ	データ												
	①主要なアウトプット (アウトカム) 情報								②主要なインプット情	報(財務情報	及び人員に関	引する情報、法	人全体)注	
	指標等	達成目標	基準値	X1年度	X2年度	X3年度	X4年度	X5年度		H23 年度	H24 年度	H25 年度	H26 年度	H27 年度
									予算額 (千円)	8,682,884	8,967,108	8,532,098	8,493,261	
									決算額 (千円)	9,127,037	8,572,227	8,651,460	9,160,191	
									経常費用 (千円)	8,923,393	8,388,109	8,227,741	8,675,680	
									経常利益 (千円)	8,826,155	8,412,573	8,168,306	8,670,619	
									行政サービス実施コスト(千円)	8,712,060	8,206,327	7,612,425	7,546,420	
									従事人員数	991	981	972	966	
					\	\			(うち常勤職員)	(807)	(790)	(785)	(765)	

3.	各事業年度の業務に	「係る目標、計画、業務実績、年	達評価に係る自己評価及び	が主務大臣による評価			
	中期目標	中期計画	年度計画	主な評価指標	法人の業務実績	・自己評価	主務大臣による評価
					業務実績	自己評価	
	(ア) 全国的な乳	(ア) 全国的な乳用牛の改良推	ア農林水産省、都道府県、	S:計画を大きく上回り、	<主要な業務実績>	<評定と根拠>	評定 B
	用牛の改良推進を図	進を図るため、センターが農林水	関係団体、生産者及び学識	かつ顕著な成果が得ら	農林水産省、関係団体及び	$\lfloor B floor$	<評定に至った理由>
	るため、農林水産省、	産省、都道府県、関係団体、生産	経験者の参画を得て、全国	れた。	学識経験者の参画を得て、全	根拠:	農林水産省、関係団体及び学識経験者の参画
	都道府県、関係団体、	者及び学識経験者を参集して会議	的な乳用牛の改良推進に関	A:計画を上回る成果が	国的な乳用牛の改良推進に関	・計画どおり実施した。	を得て、乳用牛の改良推進に関する会議を開
	生産者及び学識経験	を開催し、我が国における家畜改	する会議を開催し、センタ	得られた。	する会議を3回開催し、セン		催し、センターが実施する遺伝的能力評価、
	者との意見・情報交	良の方向性に沿ったセンターの業	一が実施する遺伝的能力評	B:計画どおり順調に実	ターが実施する遺伝的能力評		種畜の作出等のあり方について意見・情報交
	換において、積極的	務のあり方について意見・情報交	価、種畜の作出等のあり方	施された。	価、種畜の作出等のあり方に		換を行うなど全国的な乳用牛の改良推進に
	に指導的役割を果た	換を行い、業務に反映する。また、	について意見・情報交換を	C:計画どおり実施され	ついて意見・情報交換を行っ		取り組んだことから「B」評定とした。
	すとともに、都道府	農林水産省、都道府県、関係団体	行う。また、農林水産省、	ず改善を要する。	た。また、関係団体等が開催		
	県、関係団体などと	等が開催する家畜改良に関する各	都道府県、関係団体等が開	D:計画どおり実施され	する家畜改良に関する各種会		
	の役割分担の明確化	種会議に積極的に参画し、技術的	催する家畜改良に関する各	ず当該業務の廃止を含	議に積極的に参画し、計画ど		
	を図る。	助言、連携協力を行う等指導的な	種会議に積極的に参画す	めた抜本的な改善が必	おり実施した。		
		役割を果たす。	る。	要と認められる。			

1. 当事務及び事業に関	1. 当事務及び事業に関する基本情報										
第2-1-(1)-イ	第2 業務の質の向上 1 家畜改良及び飼養管理の改善 (1)	乳用牛 イ 後代検定の推進									
業務に関連する政策・施	食料・農業・農村基本計画、家畜改良増殖目標、酪農及び肉用牛生	当該事業実施に係る根拠	独立行政法人家畜改良センター法第11条第1項第1号								
策	産の近代化を図るための基本方針		家畜改良増殖法第3条の4								
当該項目の重要度、難易		関連する政策評価・行政事業	行政事業レビューシート事業番号:0028								
度		レビュー	行政事業レビューシート事業番号:0035								

2.	主要な経年デ	ータ													
	①主要なアウトプット(アウトカム)情報									②主要なインプット情	報(財務情報	及び人員に関	引する情報、法人	人全体)注	
	指標等	達成目標	基準値	X1年度	X2年度	X3年度	X4年度	X5年度			H23 年度	H24 年度	H25 年度	H26 年度	H27 年度
										予算額 (千円)	8,682,884	8,967,108	8,532,098	8,493,261	
										決算額 (千円)	9,127,037	8,572,227	8,651,460	9,160,191	
										経常費用 (千円)	8,923,393	8,388,109	8,227,741	8,675,680	
										経常利益 (千円)	8,826,155	8,412,573	8,168,306	8,670,619	
										行政サービス実施コスト(千円)	8,712,060	8,206,327	7,612,425	7,546,420	
										従事人員数	991	981	972	966	
				\		\	\			(うち常勤職員)	(807)	(790)	(785)	(765)	

3.	各事業年度の業務に	「係る目標、計画、業	務実績、年度評価に係	系る自己評価及び主務大臣による	5評価 · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·			
	中期目標	中期計画	年度計画	主な評価指標	法人の業務実績・	自己評価	主務大臣	による評価
					業務実績	自己評価		
	(イ) 遺伝的能力	(イ) 全国同一基準	イ 能力の高い検定	S:計画を大きく上回り、かつ顕	<主要な業務実績>	<評定と根拠>	評定	В
	の高い検定済種雄牛	による遺伝的能力評	済種雄牛の選抜・利用	著な成果が得られた。	後代検定に関する会議として、	$\lceil B floor$	<評定に至った理由>	
	の精液を供給するた	価に基づき、後代検定	を推進するため、後代	A:計画を上回る成果が得られた。	「全国乳用牛改良技術検討会」及	根拠:	「全国乳用牛改良技術材	検討会」及び「全国乳用牛
	め、全国同一基準に	の実施を推進するた	検定に関する会議を	B:計画どおり順調に実施された。	び「全国乳用牛改良推進会議」を	・計画どおり実施した。	改良推進会議」を開催し	、、候補種雄牛を確保する
	よる遺伝的能力評価	めの会議を開催し、技	開催し、後代検定の実	C:計画どおり実施されず改善を	開催し、候補種雄牛を確保するた		ためのガイドラインを作	作成するとともに、後代検
	に基づいた後代検定	術的助言、連携協力を	施計画の策定等につ	要する。	めのガイドラインを作成するとと		定事業に係る実施計画	の策定等について技術的
	を推進する。	行う等後代検定に関	いて技術指導等を行	D:計画どおり実施されず当該業	もに、後代検定事業に係る実施計		指導を行うなど計画ど	おり後代検定の推進を実
		する推進母体として	う。	務の廃止を含めた抜本的な改善	画の策定等について技術的指導等		施したことから「B」記	平定とした。
		の役割を果たす。		が必要と認められる。	を行い、計画どおり実施した。			

1. 当事務及び事業に関	1. 当事務及び事業に関する基本情報										
第2-1-(1)-ウ	第2 業務の質の向上 1 家畜改良及び飼養管理の改善 (1)	乳用牛 ウ 遺伝的能力の評価	· 公表								
業務に関連する政策・施	食料・農業・農村基本計画、家畜改良増殖目標、酪農及び肉用牛生	当該事業実施に係る根拠	独立行政法人家畜改良センター法第11条第1項第1号								
策	産の近代化を図るための基本方針		家畜改良増殖法第3条の4								
当該項目の重要度、難易		関連する政策評価・行政事業	行政事業レビューシート事業番号:0028								
度		レビュー	行政事業レビューシート事業番号:0035								

. 主要な経年データ														
①主要なアウ	①主要なアウトプット(アウトカム)情報									報(財務情報	及び人員に関	引する情報、法	人全体)注	
指標等	達成目標	基準値	X1年度	X2年度	X3年度	X4年度	X5年度			H23 年度	H24 年度	H25 年度	H26 年度	H27 年度
									予算額 (千円)	8,682,884	8,967,108	8,532,098	8,493,261	
									決算額 (千円)	9,127,037	8,572,227	8,651,460	9,160,191	
									経常費用 (千円)	8,923,393	8,388,109	8,227,741	8,675,680	
									経常利益 (千円)	8,826,155	8,412,573	8,168,306	8,670,619	
									行政サービ、ス実施コスト(千円)	8,712,060	8,206,327	7,612,425	7,546,420	
									従事人員数	991	981	972	966	
			\	\	\	\			(うち常勤職員)	(807)	(790)	(785)	(765)	*

	は、未物ととに非由して、ないため、因外工作の衆国と同報												
3	. 各事業年度の業務に係	る目標、計画、業務等	実績、年度評価に係る自己	己評価及び主務大臣による評価	西								
	中期目標	中期計画	年度計画	主な評価指標	法人の業務実績・	・自己評価	主務大臣による評価						
					業務実績	自己評価							
	(ア) ホルスタイン種	(ア) ホルスタイン	ウ ホルスタイン種につ	S:計画を大きく上回り、か	<主要な業務実績>	<評定と根拠>	 						
	について、生涯生産性の	種について、種雄牛及	いて、種雄牛及び雌牛の遺	つ顕著な成果が得られた。	ホルスタイン種について、種	$\lceil B floor$	<評定に至った理由>						
	向上を図る観点から、泌	び雌牛の遺伝的能力	伝的能力評価を2回以上	A:計画を上回る成果が得られ	雄牛の遺伝的能力評価を2回、	根拠:	ホルスタイン種について、種雄牛の遺伝的						
	乳持続性の評価形質を	評価を毎年2回以上	定期的に実施し公表する。	た。	雌牛の遺伝的能力評価を4回定	・計画どおり実施した。	能力評価を2回、雌牛の遺伝的能力評価を4						
	組み入れて、総合指数を	定期的に実施し公表	また、種雄牛の国際能力評	B:計画どおり順調に実施され	期的に実施し公表したほか、イ		回定期的に実施し公表したほか、インターブ						
	新たに作成するととも	する。また、種雄牛の	価機関(インターブル)か	た。	ンターブルから得た海外の遺伝		ルから得た海外の遺伝的能力評価に関する						
	に、遺伝子解析技術(S	国際能力評価機関(イ	ら得られる年3回の海外	C:計画どおり実施されず改善	的能力評価に関する情報を3回		情報を3回定期的に提供し、計画どおり遺伝						
	NP)を活用した解析技	ンターブル) から得ら	の遺伝的能力評価に関す	を要する。	定期的に提供し、計画どおり実		的能力の評価・公表に取り組んだことから						
	術を導入するなど、効率	れる年3回の海外の	る情報を定期的に提供す	D:計画どおり実施されず当該	施した。		「B」評価とした。						
	的かつ精度の高い遺伝	遺伝的能力評価に関	る。	業務の廃止を含めた抜本的									
	的能力評価を行い、全国	する情報を定期的に		な改善が必要と認められる。									
	的に改良を進める。	提供する。											

1. 当事務及び事業に関	1. 当事務及び事業に関する基本情報											
第2-1-(1)-エ	第2 業務の質の向上 1 家畜改良及び飼養管理の改善 (1) 乳	上用牛 エ 総合指数										
業務に関連する政策・施	食料・農業・農村基本計画、家畜改良増殖目標、酪農及び肉用牛生	当該事業実施に係る根拠	独立行政法人家畜改良センター法第11条第1項第1号									
策	産の近代化を図るための基本方針		家畜改良増殖法第3条の4									
当該項目の重要度、難易		関連する政策評価・行政事業	行政事業レビューシート事業番号:0028									
度		レビュー	行政事業レビューシート事業番号:0035									

. 主要な経年ラ	. 主要な経年データ													
①主要なアウトプット(アウトカム)情報									②主要なインプット情	報(財務情報	及び人員に関	引する情報、法	人全体)注	
指標等	達成目標	基準値	X1年度	X2年度	X3年度	X4年度	X5年度			H23 年度	H24 年度	H25 年度	H26 年度	H27 年度
									予算額 (千円)	8,682,884	8,967,108	8,532,098	8,493,261	
									決算額 (千円)	9,127,037	8,572,227	8,651,460	9,160,191	
									経常費用 (千円)	8,923,393	8,388,109	8,227,741	8,675,680	
									経常利益 (千円)	8,826,155	8,412,573	8,168,306	8,670,619	
									行政サービス実施コスト(千円)	8,712,060	8,206,327	7,612,425	7,546,420	
									従事人員数	991	981	972	966	
				\	\	\	\		(うち常勤職員)	(807)	(790)	(785)	(765)	

	正・未物ととに昇出して、なりため、四人工作の家にと同様											
3.	各事業年度の業務に係る	目標、計画、業務実統	漬、年度評価に係る自己	評価及び主務大臣による評価								
	中期目標	中期計画	年度計画	主な評価指標	法人の業務実	く績・自己評価	主務大臣による評価					
					業務実績	自己評価						
	(ア) ホルスタイン種に	(イ) ホルスタイン	工 学識経験者等改良関	S:計画を大きく上回り、かつ顕	<主要な業務実績>	<評定と根拠>	評定	3				
	ついて、生涯生産性の向上	種の総合指数につい	係者の意見を聞きなが	著な成果が得られた。	総合指数に関する検討	$\lfloor B floor$	<評定に至った理由>					
	を図る観点から、泌乳持続	て、学識経験者等改良	ら、泌乳持続性を組み入	A:計画を上回る成果が得られた。	会を開催し、学識経験者	根拠:	計画どおり、総合指数	数に関する検討会を開				
	性の評価形質を組み入れ	関係者の意見を聞き	れたホルスタイン種の総	B:計画どおり順調に実施された。	等改良関係者の意見を聞	・計画どおり実施した。	催し、学識経験者等改り	急関係者の意見を聞き				
	て、総合指数を新たに作成	ながら、泌乳持続性の	合指数を作成する。	C:計画どおり実施されず改善を	きながら、泌乳持続性を		ながら、泌乳持続性を約	組み入れた総合指数を				
	するとともに、遺伝子解析	評価形質を組み入れ		要する。	組み入れた総合指数を作		作成したことから「B」	評定とした。				
	技術(SNP)を活用した	たものを作成する。ま		D:計画どおり実施されず当該業	成し、計画どおり実施し							
	解析技術を導入するなど、	た、その他の形質につ		務の廃止を含めた抜本的な改善	た。							
	効率的かつ精度の高い遺伝	いて総合指数への反		が必要と認められる。								
	的能力評価を行い、全国的	映を検討する。										
	に改良を進める。											

1. 当事務及び事業に関	1. 当事務及び事業に関する基本情報										
第2-1-(1)-オ	第2 業務の質の向上 1 家畜改良及び飼養管理の改善 (1)	乳用牛 オ 評価手法の改善									
業務に関連する政策・施	食料・農業・農村基本計画、家畜改良増殖目標、酪農及び肉用牛生	当該事業実施に係る根拠	独立行政法人家畜改良センター法第11条第1項第1号								
策	産の近代化を図るための基本方針		家畜改良増殖法第3条の4								
当該項目の重要度、難易		関連する政策評価・行政事業	行政事業レビューシート事業番号:0028								
度		レビュー	行政事業レビューシート事業番号:0035								

2	. 主要な経年テ	ニータ												
	①主要なアウ	トプット(ア	ウトカム)情報						②主要なインプット情	報(財務情報	及び人員に関	引する情報、法	人全体)注	
	指標等	達成目標	基準値	X1年度	X2年度	X3年度	X4年度	X5年度		H23 年度	H24 年度	H25 年度	H26 年度	H27 年度
									予算額 (千円)	8,682,884	8,967,108	8,532,098	8,493,261	
									決算額 (千円)	9,127,037	8,572,227	8,651,460	9,160,191	
									経常費用 (千円)	8,923,393	8,388,109	8,227,741	8,675,680	
									経常利益 (千円)	8,826,155	8,412,573	8,168,306	8,670,619	
									行政サービス実施コスト(千円)	8,712,060	8,206,327	7,612,425	7,546,420	
									従事人員数	991	981	972	966	
						\			(うち常勤職員)	(807)	(790)	(785)	(765)	
										(807)	(790)	(785)		

3.	各事業年度の業務に係る	目標、計画、業務	務実績、年度評価に係る	自己評価及び主務大臣による	評価		
	中期目標	中期計画	年度計画	主な評価指標	法人の業務実績	・自己評価	主務大臣による評価
					業務実績	自己評価	
	(ア) ホルスタイン種につ	(ウ) ホルスタ	オ ホルスタイン種に	S:計画を大きく上回り、かつ	<主要な業務実績>	<評定と根拠>	評定 B
	いて、生涯生産性の向上を	イン種について、	ついて、遺伝的能力の	顕著な成果が得られた。	ホルスタイン種について、	$\lfloor B floor$	<評定に至った理由>
	図る観点から、泌乳持続性	遺伝的能力の評	評価技術に関する検討	A:計画を上回る成果が得ら	SNP情報を活用した遺伝的	根拠:	ホルスタイン種について、SNP情報を活用した
	の評価形質を組み入れて、	価技術に関する	会を開催し、SNP(一	れた。	能力評価を年4回公表すると	・計画どおり実施した。	遺伝的能力評価を年4回公表するとともに、遺伝的
	総合指数を新たに作成する	検討会を毎年開	塩基多型)情報を活用	B:計画どおり順調に実施され	もに、遺伝的能力評価技術に		能力評価技術に関する検討会を開催する等計画ど
	とともに、遺伝子解析技術	催し、SNP(一	した遺伝的能力評価手	た。	関する検討会を開催し、未評		おり評価手法の改善に取り組んだことから「B」評
	(SNP) を活用した解析	塩基多型) 情報を	法の改善に取り組むほ	C:計画どおり実施されず改善	価形質の評価方法を検討した		定とした。
	技術を導入するなど、効率	活用する等精度	か、産次を考慮した変	を要する。	ほか、産次を考慮した変量回		
	的かつ精度の高い遺伝的能	の高い遺伝的能	量回帰検定日モデルの	D:計画どおり実施されず当該	帰検定日モデルの導入につい		
	力評価を行い、全国的に改	力評価手法の開	導入等について検討す	業務の廃止を含めた抜本的	て検討し評価結果を公表し、		
	良を進める。	発に取り組む。	る。	な改善が必要と認められる。	計画どおり実施した。		

1. 当事務及び事業に関	1. 当事務及び事業に関する基本情報										
第2-1-(1)-カ	第2 業務の質の向上 1 家畜改良及び飼養管理の改善 (1)	乳用牛 カ ジャージー種の遺化	伝的能力の評価・公表								
業務に関連する政策・施	食料・農業・農村基本計画、家畜改良増殖目標、酪農及び肉用牛生	当該事業実施に係る根拠	独立行政法人家畜改良センター法第11条第1項第1号								
策	産の近代化を図るための基本方針		家畜改良増殖法第3条の4								
当該項目の重要度、難易		関連する政策評価・行政事業	行政事業レビューシート事業番号:0028								
度		レビュー	行政事業レビューシート事業番号:0035								

2.	2. 主要な経年データ														
	①主要なアウトプット (アウトカム) 情報									②主要なインプット情報	報(財務情報	及び人員に関	引する情報、法	人全体)注	
	指標等	達成目標	基準値	X1年度	X2年度	X3年度	X4年度	X5年度			H23 年度	H24 年度	H25 年度	H26 年度	H27 年度
										予算額 (千円)	8,682,884	8,967,108	8,532,098	8,493,261	
										決算額 (千円)	9,127,037	8,572,227	8,651,460	9,160,191	
										経常費用 (千円)	8,923,393	8,388,109	8,227,741	8,675,680	
										経常利益 (千円)	8,826,155	8,412,573	8,168,306	8,670,619	
										行政サービス実施コスト(千円)	8,712,060	8,206,327	7,612,425	7,546,420	
										従事人員数	991	981	972	966	
				\			\			(うち常勤職員)	(807)	(790)	(785)	(765)	

3.	各事業年度の業務に	「係る目標、計画、	業務実績、年度評	価に係る自己評価及び主務大臣に	よる評価			
	中期目標	中期計画	年度計画	主な評価指標	法人の業務実績	績・自己評価	主務大臣による評価	
					業務実績	自己評価		
	(イ) ジャージー	(エ) ジャージ	カ ジャージー種	S:計画を大きく上回り、かつ顕著	<主要な業務実績>	<評定と根拠>	評定	В
	種について、引き続	ー種について、牛	について、牛群検	な成果が得られた。	ジャージー種に係る牛群検	ГВ」	<評定に至った理由>	
	き遺伝的能力評価を	群検定データの収	定データの収集可	A:計画を上回る成果が得られた。	定データの収集可能な雌牛全	根拠:	計画どおり、ジャージー種に係る	牛群検定データの収
	実施し、改良を進め	集可能な雌牛全頭	能な雌牛全頭につ	B:計画どおり順調に実施された。	頭について、2回定期的に遺伝	・計画どおり実施した。	集可能な雌牛全頭について定期的に	遺伝的能力を評価し
	る。	について、毎年2	いて、2回定期的	C:計画どおり実施されず改善を要	的能力を評価し公表するなど、		公表したことから「B」評定とした。	
		回定期的に遺伝的	に遺伝的能力を評	する。	計画どおり実施した。			
		能力を評価し、公	価し、公表する。	D:計画どおり実施されず当該業務				
		表する。		の廃止を含めた抜本的な改善が				
				必要と認められる。				

1. 当事務及び事業に関	1. 当事務及び事業に関する基本情報										
第2-1-(1)-キ	第2 業務の質の向上 1 家畜改良及び飼養管理の改善 (1)	乳用牛 キ ブラウンスイス種の	遺伝的能力評価								
業務に関連する政策・施	食料・農業・農村基本計画、家畜改良増殖目標、酪農及び肉用牛生	当該事業実施に係る根拠	独立行政法人家畜改良センター法第11条第1項第1号								
策	産の近代化を図るための基本方針		家畜改良増殖法第3条の4								
当該項目の重要度、難易		関連する政策評価・行政事業	行政事業レビューシート事業番号:0028								
度		レビュー	行政事業レビューシート事業番号:0035								

. 主要な経年デ	データ														
①主要なアウトプット(アウトカム)情報								要なアウトプット(アウトカム)情報 ②主要なインプット情報(財務情報及び人員に関する情報、法人全体)注							
指標等	達成目標	基準値	X1年度	X2年度	X3年度	X4年度	X5年度			H23 年度	H24 年度	H25 年度	H26 年度	H27 年度	
									予算額 (千円)	8,682,884	8,967,108	8,532,098	8,493,261		
									決算額 (千円)	9,127,037	8,572,227	8,651,460	9,160,191		
									経常費用 (千円)	8,923,393	8,388,109	8,227,741	8,675,680		
									経常利益 (千円)	8,826,155	8,412,573	8,168,306	8,670,619		
									行政サービス実施コスト(千円)	8,712,060	8,206,327	7,612,425	7,546,420		
									従事人員数	991	981	972	966		
		\	\		\	\			(うち常勤職員)	(807)	(790)	(785)	(765)		

3.	各事業年度の業務に	係る目標、計画、	業務実績、年度評	価に係る自己評価及び主務力	て臣による評価		
	中期目標	中期計画	年度計画	主な評価指標	法人の業務実	績・自己評価	主務大臣による評価
					業務実績	自己評価	
	(ウ) ブラウンスイ	(オ) ブラウン	キ ブラウンスイ	S:計画を大きく上回り、か	<主要な業務実績>	<評定と根拠>	評定 B
	ス種について、遺伝	スイス種につい	ス種について、遺	つ顕著な成果が得られた。	ブラウンスイス種につ	$\lfloor B floor$	<評定に至った理由>
	的能力評価の実施に	て、牛群検定デー	伝的能力の評価技	A:計画を上回る成果が得ら	いて、遺伝的能力の評価技	根拠:	計画どおり、遺伝的能力の評価技術に関する検討会を開催
	向けた試行に取り組	タの収集状況を踏	術に関する検討会	れた。	術に関する検討会を開催	・計画どおり実施した。	し、牛群検定データと血縁データを照合の上、評価モデルの
	む。	まえ、遺伝的能力	を開催し、牛群検	B:計画どおり順調に実施さ	し、牛群検定データと血縁		検討を行ったことから「B」評定とした。
		の評価技術に関す	定データと血縁デ	れた。	データを照合の上、評価モ		
		る検討会を毎年少	ータを照合の上、	C:計画どおり実施されず改	デルの検討を行い、計画ど		
		なくとも1回開催	乳期モデルによる	善を要する。	おり実施した。		
		し、平成27年度	試行に向けた検討	D:計画どおり実施されず当			
		までに雌牛の遺伝	を行う。	該業務の廃止を含めた抜本			
		的能力評価に向け		的な改善が必要と認められ			
		た試行を行う。		る。			

1. 当事務及び事業に関する基本情報										
第2-1-(1)-ク	第2 業務の質の向上 1 家畜改良及び飼養管理の改善 (1)	乳用牛 ク 優良な候補種雄牛	等の生産・供給							
業務に関連する政策・施	食料・農業・農村基本計画、家畜改良増殖目標、酪農及び肉用牛生	当該事業実施に係る根拠	独立行政法人家畜改良センター法第11条第1項第1号、第2号							
策	産の近代化を図るための基本方針		家畜改良増殖法第3条の4							
当該項目の重要度、難易		関連する政策評価・行政事業	行政事業レビューシート事業番号:0028							
度		レビュー	行政事業レビューシート事業番号:0035							

2	2. 主要な経年を	データ													
	①主要なアウトプット(アウトカム)情報									②主要なインプット情報	報(財務情報	及び人員に関	引する情報、法	人全体)注	
	指標等	達成目標	基準値	X1年度	X2年度	X3年度	X4年度	X5年度			H23 年度	H24 年度	H25 年度	H26 年度	H27 年度
										予算額 (千円)	8,682,884	8,967,108	8,532,098	8,493,261	
										決算額 (千円)	9,127,037	8,572,227	8,651,460	9,160,191	
										経常費用 (千円)	8,923,393	8,388,109	8,227,741	8,675,680	
										経常利益 (千円)	8,826,155	8,412,573	8,168,306	8,670,619	
										行政サービス実施コスト (千円)	8,712,060	8,206,327	7,612,425	7,546,420	
										従事人員数	991	981	972	966	
				\	\	\				(うち常勤職員)	(807)	(790)	(785)	(765)	
			-	•	-		•			汁, 类数デレア質出して	しいわいため	と 1 今休の粉荷	ナー相当		<u> </u>

3.	各事業年度の業務	務に係る目標、計画、業務実	猛人年度評価に係る自己評	呼価及び主務大臣による評価				
	中期目標	中期計画	年度計画	主な評価指標	法人の業務実績	• 自己評価	主務大臣に	こよる評価
					業務実績	自己評価		
	(ア)「家畜改良	(ア) 家畜改良増殖目標の育	ク ホルスタイン種につい	S:計画を大きく上回	<主要な業務実績>	<評定と根拠>	評定	В
	増殖目標」の育種	種価目標を基に、多様な育種	て、多様な育種素材の導入	り、かつ顕著な成果が得られ	ホルスタイン種について、多	$\lceil B floor$	<評定に至った理由>	
	価目標を基に、我	素材の導入を行い、我が国の	を行い、優良な牛群を整備	た。	様な育種素材の導入を行い、優	根拠:	計画どおり、ホルスタ	アイン種について、多様
	が国の飼養環境	飼養環境(気候、風土、飼料・	する。	A:計画を上回る成果が得られ	良な牛群を整備した。また、未	・計画どおり実施した。	な育種素材の導入を行い	、優良な牛群を整備す
	(気候、風土、飼	飼養形態等)に適した優良な	未経産採卵技術の活用及	た。	経産採卵技術の活用及びドナー		るとともに、未経産採り	P技術の活用及びドナー
	料・飼養形態な	種畜生産に取り組むととも	びドナーの集合検定によ	B:計画どおり順調に実施され	の集合検定により、生涯生産性		の集合検定により、生涯	E生産性が高い候補種雄
	ど) に適した優良	に、民間では取り組み難い未	り、生涯生産性が高い候補	た。	が高い候補種雄牛を生産し、3		牛を生産したことから	「B」評定とした。
	な種畜生産に取	経産採卵技術とドナーの集合	種雄牛を生産・供給する。	C:計画どおり実施されず改善	4頭の候補種雄牛を供給した。			
	り組むとともに、	検定を組み合わせた高度な繁	後代検定中の種雄牛の精	を要する。	さらに、ドナーの3産次までの			
	泌乳持続性や体	殖技術等を活用し、泌乳持続	液を活用し、ドナーの3産	D:計画どおり実施されず当該	集合検定を行い、生涯生産性が			
	型など生涯生産	性や体型等に優れ、生涯生産	次までの集合検定を行い、	業務の廃止を含めた抜本的	高い候補種雄牛を生産し、1頭			
	性の向上を図る。	性が高い種畜を生産・供給す	生涯生産性が高い候補種雄	な改善が必要と認められる。	の候補種集牛を供給し、計画ど			
		る。	牛の生産を行う。		おり実施した。			

1. 当事務及び事業に関	1. 当事務及び事業に関する基本情報										
第2-1-(1)-ケ	第2 業務の質の向上 1 家畜改良及び飼養管理の改善 (1)	乳用牛 ケ SNP 情報の活用									
業務に関連する政策・施	食料・農業・農村基本計画、家畜改良増殖目標、酪農及び肉用牛生	当該事業実施に係る根拠	独立行政法人家畜改良センター法第11条第1項第1号								
策	産の近代化を図るための基本方針		家畜改良増殖法第3条の4								
当該項目の重要度、難易		関連する政策評価・行政事業	行政事業レビューシート事業番号:0028								
度		レビュー	行政事業レビューシート事業番号:0035								

. 主要な経年ラ	データ												
①主要なアウトプット(アウトカム)情報								②主要なインプット情	報(財務情報	及び人員に関	引する情報、法	人全体)注	
指標等	達成目標	基準値	X1年度	X2年度	X3年度	X4年度	X5年度		H23 年度	H24 年度	H25 年度	H26 年度	H27 年度
								予算額 (千円)	8,682,884	8,967,108	8,532,098	8,493,261	
								決算額 (千円)	9,127,037	8,572,227	8,651,460	9,160,191	
								経常費用 (千円)	8,923,393	8,388,109	8,227,741	8,675,680	
								経常利益 (千円)	8,826,155	8,412,573	8,168,306	8,670,619	
								行政サービス実施コスト (千円)	8,712,060	8,206,327	7,612,425	7,546,420	
								従事人員数	991	981	972	966	
		\						(うち常勤職員)	(807)	(790)	(785)	(765)	
\	\	`	\		\	\	\					(100)	

3.	各事業年度の業務に	工係る目標、計画、	業務実績、年度評	価に係る自己評価及び主務	大臣による評価		
	中期目標	中期計画	年度計画	主な評価指標	法人の業務実施	漬・自己評価	主務大臣による評価
					業務実績	自己評価	
	(イ) 遺伝的及び能	(イ) 候補種雄牛	ケ ホルスタイン	S:計画を大きく上回り、	<主要な業務実績>	<評定と根拠>	評定 B
	力的な多様性の確保	及び改良用雌牛の	種について、SN	かつ顕著な成果が得られ	ホルスタイン種について、	$\lfloor B floor$	<評定に至った理由>
	に配慮しつつ、SN	生産・供給に当た	P情報を活用した	た。	SNP情報を活用した遺伝的	根拠:	計画どおり、SNP情報を活用した遺伝的能力評価値を
	P遺伝子解析技術を	っては、SNP情	遺伝的能力評価値	A:計画を上回る成果が得	能力評価値をもとに、候補種	・計画どおり実施した。	もとに、候補種雄牛及び改良用雌牛が生産されたことから
	活用した候補種雄牛	報を活用した遺伝	をもとに、候補種	られた。	雄牛及び改良用雌牛の生産を		「B」評定とした。
	などの生産・供給に	的能力評価値をも	雄牛及び改良用雌	B:計画どおり順調に実施	行い、計画どおり実施した。		
	努める。	とに、精度の高い	牛の生産を行う。	された。			
		選定を行う。		C:計画どおり実施されず			
				改善を要する。			
				D:計画どおり実施されず			
				当該業務の廃止を含めた			
				抜本的な改善が必要と認			
				められる。			

1. 当事務及び事業に関	する基本情報		
第2-1-(1)-コ	第2 業務の質の向上 1 家畜改良及び飼養管理の改善 (1)	乳用牛 コ 泌乳持続性に優れる	る改良用雌牛の作出
業務に関連する政策・施	食料・農業・農村基本計画、家畜改良増殖目標、酪農及び肉用牛生	当該事業実施に係る根拠	独立行政法人家畜改良センター法第11条第1項第1号
策	産の近代化を図るための基本方針		家畜改良増殖法第3条の4
当該項目の重要度、難易		関連する政策評価・行政事業	行政事業レビューシート事業番号:0028
度		レビュー	行政事業レビューシート事業番号:0035

2.	主要な経年テ	データ												
	①主要なアウ	トプット(ア	ウトカム)情報				②主要なインプット情報	報(財務情報	及び人員に関	引する情報、法	人全体)注			
	指標等	達成目標	基準年	X1年度	X2年度	X3年度	X4年度	X5年度		H23 年度	H24 年度	H25 年度	H26 年度	H27 年度
									予算額 (千円)	8,682,884	8,967,108	8,532,098	8,493,261	
									決算額 (千円)	9,127,037	8,572,227	8,651,460	9,160,191	
									経常費用 (千円)	8,923,393	8,388,109	8,227,741	8,675,680	
									経常利益 (千円)	8,826,155	8,412,573	8,168,306	8,670,619	
									行政サービス実施コスト(千円)	8,712,060	8,206,327	7,612,425	7,546,420	
									従事人員数	991	981	972	966	
				\					(うち常勤職員)	(807)	(790)	(785)	(765)	

	•							
3. 各事業年度の業務に係る	る目標、計画、業務実績、	年度評価に係る自己評	平価及び主務大臣による評価					
中期目標	中期計画	年度計画	主な評価指標	法人の業務実	績・自己評価	主務大臣による評価		
				業務実績	自己評価			
(ウ)高い泌乳持続性を有	(ウ) 高い泌乳持続性	コ ホルスタイン種に	S:計画を大きく上回り、かつ顕	<主要な業務実績>	<評定と根拠>	評定 B		
する優良な候補種雄牛など	を有する優良な候補種雄	ついて、高い泌乳持続	著な成果が得られた。	ホルスタイン種につい	$\lfloor B floor$	<評定に至った理由>		
を生産・供給するため、泌	牛等を生産・供給するた	性を有する優良な候補	A:計画を上回る成果が得られた。	て、高い泌乳持続性を有す	根拠:	計画どおり、泌乳持続性の遺伝的能力評		
乳持続性の遺伝評価値が平	め、受精卵移植技術と3	種雄牛等を生産・供給	B:計画どおり順調に実施された。	る優良な候補種雄牛等を	・計画どおり実施した。	価成績が全国平均以上の改良用雌牛を作出		
均以上で、家畜改良増殖目	産次までのドナーの泌乳	するため、ドナーの3	C:計画どおり実施されず改善を	生産・供給するため、ドナ		したことから「B」評定とした。		
標の育種価目標数値(乳量	: 持続性を明らかにするド	産次までの集合検定を	要する。	一の3産次までの集合検				
113kg/年、乳脂肪2.	ナーの集合検定システム	行う。また、泌乳持続	D:計画どおり実施されず当該業	定を行うとともに、泌乳持				
6 k g/年、無脂乳固形分	を活用することにより、	性の遺伝的能力評価成	務の廃止を含めた抜本的な改善	続性の遺伝的能力評価成				
9.2 k g/年、乳蛋白質	※ ※乳持続性において評価	績が全国平均以上の改	が必要と認められる。	績が全国平均以上の改良				
2.9 kg/年)以上の遺	成績が平均以上の優良な	良用雌牛を作出する。		用雌牛を270頭作出し、				
伝的能力を有する改良用雌	改良用雌牛を作出する。			計画どおり実施した。				
牛を生産する。								

1. 当事務及び事業に関する基本情報 第2-1-(1)-サ 第2 業務の質の向上 1 家畜改良及び飼養管理の改善(1)乳用牛 サ 泌乳能力に優れる改良用雌牛の生産 業務に関連する政策・施 策 食料・農業・農村基本計画、家畜改良増殖目標、酪農及び肉用牛生 産の近代化を図るための基本方針 当該事業実施に係る根拠 独立行政法人家畜改良センター法第11条第1項第1号、第2号家畜改良増殖法第3条の4 当該項目の重要度、難易度 関連する政策評価・行政事業レビューシート事業番号:0028 での正式といった。 では、この28 では、コーシート事業番号:0035

2. 主要な経年データ ①主要なアウトプット (アウトカム) 情報 ②主要なインプット情報(財務情報及び人員に関する情報、法人全体)注 達成目標 | 基準値 | H23 年度 | H24 年度 | H25 年度 | H26 年度 | H27 年度 H23 年度 | H24 年度 指標等 H25 年度 | H26 年度 | H27 年度 遺伝的改良量 予算額(千円) 8,682,884 8,967,108 8,532,098 8,493,261 230.8kg | 221.1kg 乳量(kg/年) 決算額(千円) 113kg 354.1kg 186.6kg 9,127,037 8,572,227 8,651,460 9,160,191 乳脂肪量(同上) 7.5kg 経常費用(千円) 8,227,741 8,675,680 2.6kg 11.4kg 9.1kg 9.3kg 8,923,393 8,388,109 無脂乳固形分(同上) 19.0kg 9.2kg 26.3kg 17.7kg 15.7kg 経常利益(千円) 8,826,155 8,412,573 8,168,306 8,670,619 乳タンパク量(同上) 7.2kg 5.9kg 5.9kg 9.7kg 6.6kg 行政サービス実施コスト(千円) 7,546,420 8,712,060 8,206,327 7,612,425 従事人員数 991 981 972 966 (うち常勤職員) (807)(790)(785)(765)

注:業務ごとに算出していないため、法人全体の数値を掲載

				任・未物してに昇山し	() a () () () ()	(工作の 然間で19数	
3.	各事業年度の業務に係る	目標、計画、業務実績、	年度評価に係る自己評価	及び主務大臣による評価			
	中期目標	中期計画	年度計画	主な評価指標	法人の業務実績・自	1己評価	主務大臣による評価
					業務実績	自己評価	
	(ウ) 高い泌乳持続性を	(エ) 未経産ドナーの集合	サーホルスタイン種につ	指標=遺伝的改良量	<主要な業務実績>	<評定と根拠>	評定 A
	有する優良な候補種雄牛な	検定システムを活用する	いて、未経産ドナーの集合	S:計画の120%以上であ	ホルスタイン種について、未	$\lceil \mathbf{B} floor$	<評定に至った理由>
	どを生産・供給するため、	ことにより、家畜改良増殖	検定システムを活用する	り、かつ、特に優れた成果	経産ドナーの集合検定システ	根拠:	センターにおいては、元々優れた資質の雌牛を
	泌乳持続性の遺伝評価値が	目標の育種価目標数値 (乳	ことにより、家畜改良増殖	が認められる。	ムを活用することにより、セン	・改良用雌牛の年	飼養していることを参酌したとしても専門家の
	平均以上で、家畜改良増殖	量113kg/年、乳脂肪	目標である年当たり改良	A:計画の120%以上	ターが 2011年に生産した	当たり改良量が	検討の下で策定された家畜改良増殖目標におい
	目標の育種価目標数値(乳	2.6 k g/年、無脂乳固	量(乳量113kg/年、	B:計画の100%以上、	改良用雌牛の年当たり改良量	指数値を上回っ	て提示された遺伝的改良量を大きく上回る能力
	量113kg/年、乳脂肪	形分9.2 kg/年、乳蛋	乳脂肪2.6kg/年、無	120%未満	は、2007年に生産した雌牛	た。	を示す雌牛が生産されたことから「A」評定とし
	2. 6 k g/年、無脂乳固	白質2.9kg/年)以上	脂乳固形分9.2 k g/	C:計画の80%以上、	を基準として、乳量186.6		た。
	形分9.2 kg/年、乳蛋	の遺伝的能力を有する改	年、乳蛋白質2.9kg/	100%未満	k g/年、乳脂肪7.5 k g/		<その他事項>
	白質2.9 kg/年)以上	良用雌牛を生産する。	年)以上に遺伝的能力が向	D:計画の80%未満、又	年、無脂乳固形分15.7kg		センターは、数値目標が設定している項目の全
	の遺伝的能力を有する改良		上した改良用雌牛を生産	は業務運営の改善等必要	/年、乳蛋白質 5.9 kg/		てを「B」と自己評価しているが、総務省が定め
	用雌牛を生産する。		する。	な措置が必要と認められ	年となり、いずれの形質につい		た新しい評価指針では、目標値に対する達成度合
				る。	ても家畜改良増殖目標に掲げ		いが 120%以上の項目は「A」と評価することと
					られた年当たり改良量を1.5		なっている。目標値の設定水準が適切であり、か
					倍以上上回る改良を行うこと		つ、3カ年度の実績評価と矛盾が生じない評価も
					ができた。		項目のうち 120%以上の達成度合いが確認され
							たものは「A」への格上げを検討すべき。(有識
							者会議委員意見)

1. 当事務及び事業に関	する基本情報													
第2-1-(1)-シ	第2 業務の質の向上 1 家畜改良及び飼養管理の改善 (1)	業務の質の向上 1 家畜改良及び飼養管理の改善 (1)乳用牛 シ 候補種雄牛の待機業務終了												
業務に関連する政策・施	食料・農業・農村基本計画、家畜改良増殖目標、酪農及び肉用牛生	当該事業実施に係る根拠	独立行政法人家畜改良センター法第11条第1項第1号											
策	産の近代化を図るための基本方針		家畜改良増殖法第3条の4											
当該項目の重要度、難易		関連する政策評価・行政事業	行政事業レビューシート事業番号:0028											
度		レビュー	行政事業レビューシート事業番号:0035											

. 主要な経年テ	データ													
①主要なアウ	①主要なアウトプット(アウトカム)情報								②主要なインプット情	報(財務情報	及び人員に関	引する情報、法	人全体)注	
指標等	達成目標	基準値	X1年度	X2年度	X3年度	X4年度	X5年度			H23 年度	H24 年度	H25 年度	H26 年度	H27 年度
									予算額 (千円)	8,682,884	8,967,108	8,532,098	8,493,261	
									決算額 (千円)	9,127,037	8,572,227	8,651,460	9,160,191	
									経常費用 (千円)	8,923,393	8,388,109	8,227,741	8,675,680	
									経常利益 (千円)	8,826,155	8,412,573	8,168,306	8,670,619	
									行政サービス実施コスト(千円)	8,712,060	8,206,327	7,612,425	7,546,420	
									従事人員数	991	981	972	966	
					\	\			(うち常勤職員)	(807)	(790)	(785)	(765)	

3.	各事業年度の業務に係る	目標、計画、業	務実績、年度評	価に係る自己評価及び主統	劣大臣による評価			
	中期目標	中期計画	年度計画	主な評価指標	法人の業務実績・	自己評価	主務大臣による評価	
					業務実績	自己評価		
	(ウ)高い泌乳持続性を有	(イ) 酪農家の	シ ホルスタイ	S:計画を大きく上回り、	<主要な業務実績>	<評定と根拠>	評定 B	
	する優良な候補種雄牛など	雌牛を利用して	ン種について、	かつ顕著な成果が得ら	ホルスタイン種について、酪	$\lfloor B floor$	<評定に至った理由>	
	を生産・供給するため、泌	生産及び導入し	酪農家の雌牛を	れた。	農家の雌牛を利用して生産及び	根拠:	計画どおり業務を縮小したことから「B」評	定とした。
	乳持続性の遺伝評価値が平	た候補種雄牛の	利用して生産導	A:計画を上回る成果が得	導入した候補種雄牛の待機業務	・計画どおり実施した。		
	均以上で、家畜改良増殖目	待機業務は、平	入した候補種雄	られた。	を縮小し、計画どおり実施した。			
	標の育種価目標数値(乳量	成27年度末ま	牛の待機業務	B:計画どおり順調に実施				
	113kg/年、乳脂肪2.	でに終了する。	は、順次、縮小	された。				
	6 k g/年、無脂乳固形分		する。	C:計画どおり実施されず				
	9. 2 k g/年、乳蛋白質			改善を要する。				
	2. 9 k g/年)以上の遺			D:計画どおり実施されず				
	伝的能力を有する改良用雌			当該業務の廃止を含め				
	牛を生産する。			た抜本的な改善が必要				
				と認められる。				

1. 当事務及び事業に関	する基本情報		
第2-1-(2)	第2 業務の質の向上 1 家畜改良及び飼養管理の改善 (2)	肉用牛	
業務に関連する政策・施	食料・農業・農村基本計画、家畜改良増殖目標、酪農及び肉用牛生	当該事業実施に係る根拠	独立行政法人家畜改良センター法第11条第1項第1号、第2号
策	産の近代化を図るための基本方針		家畜改良増殖法第3条の4
当該項目の重要度、難易		関連する政策評価・行政事業	行政事業レビューシート事業番号:0028
度		レビュー	行政事業レビューシート事業番号:0035

2. 主要な経年ラ	データ												
①主要なアウ	トプット(ア	ウトカム) 情	青報				②主要なインプット情報	報(財務情報	及び人員に関	引する情報、法	人全体)注		
指標等	達成目標	基準値	X1年度	X2年度	X3年度	X4年度	X5年度		H23 年度	H24 年度	H25 年度	H26 年度	H27 年度
								予算額 (千円)	8,682,884	8,967,108	8,532,098	8,493,261	
								決算額 (千円)	9,127,037	8,572,227	8,651,460	9,160,191	
								経常費用 (千円)	8,923,393	8,388,109	8,227,741	8,675,680	
								経常利益 (千円)	8,826,155	8,412,573	8,168,306	8,670,619	
								行政サービ、ス実施コスト(千円)	8,712,060	8,206,327	7,612,425	7,546,420	
								従事人員数	991	981	972	966	
	\		\	\				(うち常勤職員)	(807)	(790)	(785)	(765)	
			_					注:業務ごとに算出してい	ないため、法	人全体の数値を	·掲載		

3	各事業年度の業務に係	える目標、計画、業務実績	、年度評価に依	系る自己評価及び主務大臣に	よる評価				
	中期目標	中期計画	年度計画	主な評価指標	法人の業務実績・	自己評価	H	主務大臣による評価	
					業務実績		自己評価		
	多様な消費者ニーズに	多様な消費者ニーズに応	(2) 肉用牛	指標=「細項目の項目数×2」	□全国的な肉用牛の改良推進	2/2(B)	<評定と根拠>	評定 B	
	応えた国産牛肉の安定的	えた国産牛肉の安定的な供	<以下略>	(満点) に対する「各細項目の	□広域後代検定の推進	2/2(B)	$\lfloor B floor$	<評定に至った理由>	
	な供給と生産コストの低	給と生産コストの低減を図		点数の合計値」(合計点)の比	□肉用牛枝肉情報全国データベースは	こよる	根拠:	下記のとおり、下位の評価項目である細項	目の合計点
	減を図っていくため、肉	るため、肉用牛改良は、肉		率 各細項目の評価点数の区分	情報提供	2/2(B)	満点;20P	がB評定の判定基準内(満点×8/10≦合計	∤点<12/
	用牛改良は、肉質(脂肪	質(脂肪交雑)や肉量に偏		は以下のとおりとする。	□遺伝的能力の評価・公表	2/2(B)	(細項目10×	10) であったため。	
	交雑)や肉量に偏重した	重した改良から、適度に脂		S評価: 4点、A評価: 3点、	□評価手法の改善	2/2(B)	2 P)	満 点:24点(小項目12×2点)	
	改良から、適度に脂肪交	肪交雑が入りつつも早熟性		B評価:2点、C評価:1点、	□黒毛和種の多様性確保及び候補種類	生牛		合計点:24点=2点×12	
	雑が入りつつも早熟性や	や飼料利用性等の新たな改		D評価: 0点	等の生産・供給	2/2(B)	合計:20P	12点/12点=1.0(10/10)	
	飼料利用性などの新たな	良指標を重視した改良へシ		A:満点×12/10≦合計点	□増体性に優れる黒毛和種候補種雄牛	=		□全国的な肉用牛の改良推進	2点(B)
	改良指標を重視した改良	フトすることが必要であ		B:満点×8/10≦合計点	の生産	2 /2(B)	2 0 P/2 0 P	□広域後代検定の推進	2 点(B)
	ヘシフトすることが必要	り、早熟性や飼料利用性に		<満点×12/10	□黒毛和種における飼料利用性早熟性	Ė	=1.0 (10/	□肉用牛枝肉情報全国 DB による情報提供	2 点(B)
	である。また、近交係数	着目した検定手法や遺伝的		C:満点×5/10≦合計点	等に関する検定手法の開発	2/2(B)	10)	□遺伝的能力の評価・公表、	2点(B)
	の高まりを抑えるため、	能力評価手法を開発し、優		<満点×8/10	□褐毛和種の多様性確保及び種畜の			□評価手法の改善	2 点(B)
	遺伝的に多様な種雄牛造	良な種畜生産に取り組む。		D:合計点≦満点×5/10	生産・供給	2/2(B)		□黒毛和種の多様性確保及び候補種雄牛等	
	成を進める必要がある。	また、近交係数の高まりを			□日本短角種の多様性確保及び育種			の生産・供給、	2点(B)
	このため、以下の取組を	抑えるため、黒毛和種、褐			改良素材の生産・供給	2/2(B)		□増体性に優れる黒毛和種候補種雄牛の生産	2点(B)
	行う。	毛和種及び日本短角種につ						□黒毛和種における飼料利用性早熟性等に関	
		いてそれぞれ遺伝的に多様						する検定手法の開発、	2点(B)
		な牛群を整備しつつ、種畜						□褐毛和種の多様性確保及び種畜の生産・供給	命 2点(B)
		等の供給を行う。このため、						□日本短角種の多様性確保及び育種改良素材の	7)
		以下の取組を行う。						生産・供給、	2点(B)
								合 計点	20点

1. 当事務及び事業に関	する基本情報		
第2-1-(2)-ア	第2 業務の質の向上 1 家畜改良及び飼養管理の改善 (2)	肉用牛 ア 全国的な肉用牛の	没良推進
業務に関連する政策・施	食料・農業・農村基本計画、家畜改良増殖目標、酪農及び肉用牛生	当該事業実施に係る根拠	独立行政法人家畜改良センター法第11条第1項第1号
策	産の近代化を図るための基本方針		家畜改良増殖法第3条の4
当該項目の重要度、難易		関連する政策評価・行政事業	行政事業レビューシート事業番号:0028
度		レビュー	行政事業レビューシート事業番号:0035

2	主要な経年ラ	ニータ												
	①主要なアウ	トプット(ア	ウトカム)・	情報					②主要なインプット情報	報(財務情報	及び人員に関	引する情報、法	人全体)注	
	指標等	達成目標	基準値	X1年度	X2年度	X3年度	X4年度	X5年度		H23 年度	H24 年度	H25 年度	H26 年度	H27 年度
									予算額 (千円)	8,682,884	8,967,108	8,532,098	8,493,261	
									決算額 (千円)	9,127,037	8,572,227	8,651,460	9,160,191	
									経常費用 (千円)	8,923,393	8,388,109	8,227,741	8,675,680	
									経常利益 (千円)	8,826,155	8,412,573	8,168,306	8,670,619	
									行政サービス実施コスト(千円)	8,712,060	8,206,327	7,612,425	7,546,420	
									従事人員数	991	981	972	966	
						\	\		(うち常勤職員)	(807)	(790)	(785)	(765)	

	は、未防してに昇山していないにめ、伝八王仲の妖胆を拘戦 - タ末光に声の光弦になる見無、音に悪、光弦はは、に声気にはならっまがになるとなりになるとなっますに													
3.	各事業年度の業務	に係る目標、計画、業務実績、	年度評価に係る自己評価及	び主務大臣による評価										
	中期目標	中期計画	年度計画	主な評価指標	法人の業務実績	・自己評価	主務大臣による評価							
					業務実績	自己評価								
	(ア)全国的な肉用	(ア) 全国的な肉用牛の改良推進	ア農林水産省、都道府県、	S:計画を大きく上回り、かつ	<主要な業務実績>	<評定と根拠>	評定 B							
	牛の改良推進を図	を図るため、センターが農林水産	関係団体、生産者及び学識	顕著な成果が得られた。	農林水産省、都道府県、関	$\lceil \mathrm{B} floor$	<評定に至った理由>							
	るため、農林水産	省、都道府県、関係団体、生産者	経験者の参画を得て、全国	A:計画を上回る成果が得ら	係団体、生産者及び学識経験	根拠:	計画どおり、農林水産省、都道府県、							
	省、都道府県、関係	及び学識経験者を参集して会議を	的な肉用牛の改良推進に関	れた。	者の参画を得て、全国的な肉	・計画どおり実施した。	関係団体、生産者及び学識経験者の参							
	団体、生産者及び学	開催し、我が国における家畜改良	する会議を開催し、センタ	B:計画どおり順調に実施さ	用牛の改良推進に関する会議		画を得て、全国会議を3回開催し、セ							
	識経験者との意	の方向性に沿ったセンターの業務	ーが実施する遺伝的能力評	れた。	を3回開催し、センターが実		ンターが実施する遺伝的能力評価、種							
	見・情報交換におい	のあり方について意見・情報交換	価、種畜の作出等のあり方	C:計画どおり実施されず改善	施する遺伝的能力評価、種畜		畜の作出のあり方について意見・情報							
	て、積極的に指導的	を行い、業務に反映する。また、	について意見・情報交換を	を要する。	の作出のあり方について意		交換等を行う等全国的な肉用牛の改良							
	役割を果たすとと	農林水産省、都道府県、関係団体	行う。また、農林水産省、	D:計画どおり実施されず当該	見・情報交換等を行った。ま		推進に取り組んだことから「B」評定							
	もに、都道府県、関	等が開催する家畜改良に関する各	都道府県、関係団体等が開	業務の廃止を含めた抜本的	た、都道府県、関係団体等が		とした。							
	係団体などとの役	種会議に積極的に参画し、技術的	催する家畜改良に関する各	な改善が必要と認められる。	開催する家畜改良に関する各									
	割分担の明確化を	助言、連携協力を行う等指導的な	種会議に積極的に参画す		種会議に積極的に参画し、計									
	図る。	役割を果たす。	る。		画どおり実施した。									

1. 当事務及び事業に関	する基本情報		
第2-1-(2)-イ	第2 業務の質の向上 1 家畜改良及び飼養管理の改善 (2)	肉用牛 イ 広域後代検定の推議	進
業務に関連する政策・施	食料・農業・農村基本計画、家畜改良増殖目標、酪農及び肉用牛生	当該事業実施に係る根拠	独立行政法人家畜改良センター法第11条第1項第1号
策	産の近代化を図るための基本方針		家畜改良増殖法第3条の4
当該項目の重要度、難易		関連する政策評価・行政事業	行政事業レビューシート事業番号:0028
度		レビュー	行政事業レビューシート事業番号:0035

2.	主要な経年テ	データ													
	①主要なアウトプット (アウトカム) 情報									②主要なインプット情	報(財務情報	及び人員に関	引する情報、法	人全体)注	
	指標等	達成目標	基準値	X1年度	X2年度	X3年度	X4年度	X5年度			H23 年度	H24 年度	H25 年度	H26 年度	H27 年度
										予算額 (千円)	8,682,884	8,967,108	8,532,098	8,493,261	
										決算額 (千円)	9,127,037	8,572,227	8,651,460	9,160,191	
										経常費用 (千円)	8,923,393	8,388,109	8,227,741	8,675,680	
										経常利益 (千円)	8,826,155	8,412,573	8,168,306	8,670,619	
										行政サービス実施コスト(千円)	8,712,060	8,206,327	7,612,425	7,546,420	
										従事人員数	991	981	972	966	
						\				(うち常勤職員)	(807)	(790)	(785)	(765)	

3.	各事業年度の業務に	1係る目標、計画、業	務実績、年度評価に係る	ら自己評価及び主務大臣による	三評価		
	中期目標	中期計画	年度計画	主な評価指標	法人の業務実績・	主務大臣による評価	
					業務実績	自己評価	
	(イ)遺伝的能力の	(イ) 毎年、全国同	イ 広域後代検定に係る	S:計画を大きく上回り、かつ	<主要な業務実績>	<評定と根拠>	評定 B
	高い検定済種雄牛の	一基準による遺伝的	候補種雄牛について、検	顕著な成果が得られた。	広域後代検定に係る候補種雄牛の	$\lceil B floor$	<評定に至った理由>
	広域的な利用を図る	能力評価を行い、この	定データ及び血統データ	A:計画を上回る成果が得られ	うち、平成26年度末までに後代検定	根拠:	計画どおり広域後代検定の推進に係る取
	ため、全国同一基準	評価結果に基づいて	を収集・分析し、遺伝的	た。	が終了した36頭すべてについて、検	・計画どおり実施した。	組が実施されたことから「B」評定とした。
	による評価を行う後	選抜された能力の高	能力評価を実施する。	B:計画どおり順調に実施され	定データ及び血統データを収集・分析		
	代検定を推進する。	い検定済種雄牛につ	遺伝的能力評価に基づ	た。	し、遺伝的能力評価を実施した。また、		
		いてその精液の広域	き選定された後代検定済	C:計画どおり実施されず改善	遺伝的能力評価に基づき選定された		
		的な利用を推進する。	種雄牛について、都道府	を要する。	後代検定済種雄牛について、都道府県		
			県に対する精液利用希望	D:計画どおり実施されず当該	に対する精液利用希望調査を実施す		
			調査を実施するなどによ	業務の廃止を含めた抜本的	るなどにより、その精液の広域流通を		
			り、その精液の広域流通	な改善が必要と認められる。	推進するなど、計画どおり実施した。		
			を推進する。				

1. 当事務及び事業に関	する基本情報		
第2-1-(2)-ウ	第2 業務の質の向上 1 家畜改良及び飼養管理の改善 (2)	肉用牛 ウ 肉用牛枝肉情報全	:国データベースによる情報提供
業務に関連する政策・施	食料・農業・農村基本計画、家畜改良増殖目標、酪農及び肉用牛生	当該事業実施に係る根拠	独立行政法人家畜改良センター法第11条第1項第1号
策	産の近代化を図るための基本方針		家畜改良増殖法第3条の4
当該項目の重要度、難易		関連する政策評価・行政事業	行政事業レビューシート事業番号:0028
度		レビュー	行政事業レビューシート事業番号:0035

. 主要な経年テ	ニータ													
①主要なアウ	トプット(ア	ウトカム) 情	報				②主要なインプット情	報(財務情報	及び人員に関	引する情報、法	人全体)注			
指標等	達成目標	基準値	X1年度	X2年度	X3年度	X4年度	X5年度			H23 年度	H24 年度	H25 年度	H26 年度	H27 年度
									予算額 (千円)	8,682,884	8,967,108	8,532,098	8,493,261	
									決算額 (千円)	9,127,037	8,572,227	8,651,460	9,160,191	
									経常費用 (千円)	8,923,393	8,388,109	8,227,741	8,675,680	
									経常利益 (千円)	8,826,155	8,412,573	8,168,306	8,670,619	
									行政サービス実施コスト(千円)	8,712,060	8,206,327	7,612,425	7,546,420	
									従事人員数	991	981	972	966	
						\			(うち常勤職員)	(807)	(790)	(785)	(765)	
	①主要なアウ		①主要なアウトプット (アウトカム) 情報 指標等 達成目標 基準値 X1年度 X2年度 X3年度 X3年度 X4年度 X5年度 第額 (千円) 決算額 (千円) 決算額 (千円) 経常費用 (千円) 経常利益 (千円) 行政サービ 次実施コスト (千円) 従事人員数	①主要なアウトプット (アウトカム) 情報 指標等 達成目標 基準値 X1年度 X2年度 X3年度 X4年度 X5年度 予算額 (千円) 8,682,884 決算額 (千円) 9,127,037 経常費用 (千円) 8,923,393 経常利益 (千円) 8,826,155 行政サービス実施コスト (千円) 8,712,060 従事人員数 991	①主要なアウトプット (アウトカム) 情報 ②主要なインプット情報 (財務情報及び人員に関係等 達成目標 基準値 X1年度 X3年度 X3年度 X4年度 X5年度 P 類額 (千円) 8,682,884 8,967,108 決算額 (千円) 9,127,037 8,572,227 経常費用 (千円) 8,923,393 8,388,109 経常費用 (千円) 8,826,155 8,412,573 行政サーじ、2実施コスト (千円) 8,712,060 8,206,327 従事人員数 991 981	①主要なアウトプット (アウトカム) 情報 指標等 達成目標 基準値 X1年度 X3年度 X4年度 X5年度 予算額(千円) 8,682,884 8,967,108 8,532,098 決算額(千円) 9,127,037 8,572,227 8,651,460 経常費用(千円) 8,923,393 8,388,109 8,227,741 経常利益(千円) 8,826,155 8,412,573 8,168,306 行政サービュス実施コスト(千円) 8,712,060 8,206,327 7,612,425 従事人員数 991 981 972	①主要なアウトプット(アウトカム)情報 指標等 達成目標 基準値 X1年度 X2年度 X3年度 X4年度 X5年度 一方算額(千円) 8,682,884 8,967,108 8,532,098 8,493,261 決算額(千円) 9,127,037 8,572,227 8,651,460 9,160,191 経常費用(千円) 8,923,393 8,388,109 8,227,741 8,675,680 経常利益(千円) 8,826,155 8,412,573 8,168,306 8,670,619 行政サービ・不実施コスト(千円) 8,712,060 8,206,327 7,546,420 従事人員数 991 981 972 966							

3.	各事業年度の業務	に係る目標、計画、対	業務実績、年度評価に係	る自己評価及び主務大臣による	評価		
	中期目標	中期計画	年度計画	主な評価指標	法人の業務実績・	自己評価	主務大臣による評価
					業務実績	自己評価	
	(ア)産肉能力に基	(ア) 産肉能力に基づ	ウ 産肉能力に基づく改	S:計画を大きく上回り、かつ顕	<主要な業務実績>	<評定と根拠>	評定 B
	づく改良を推進す	く改良を推進するた	良を推進するため、黒毛	著な成果が得られた。	黒毛和種、褐毛和種及び日本短角	$\lfloor B floor$	<評定に至った理由>
	るため、枝肉情報を	め、黒毛和種、褐毛和	和種、褐毛和種及び日本	A:計画を上回る成果が得られた。	種に係る肉用牛枝肉情報全国デー	根拠:	計画どおり、肉用牛枝肉情報全国データベ
	集計し、改良の基礎	種及び日本短角種に	短角種に係る肉用牛枝肉	B:計画どおり順調に実施された。	タベースに収集された枝肉情報を	・計画どおり実施した。	ースに収集された枝肉情報を収集分析し、関
	情報として提供す	係る肉用牛枝肉情報	情報全国データベースに	C:計画どおり実施されず改善を	集計・分析し、関係機関に提供し、		係機関への提供を実施したことから「B」評
	る。	全国データベースに	収集された枝肉情報を集	要する。	計画どおり実施した。		定とした。
		収集された枝肉情報	計・分析し、改良の基礎	D:計画どおり実施されず当該業			
		を集計・分析し、改良	情報として関係機関に提	務の廃止を含めた抜本的な改善			
		の基礎情報として関	供する。	が必要と認められる。			
		係機関に毎年提供す					
		る。					

1. 当事務及び事業に関	する基本情報		
第2-1-(2)-工	第2 業務の質の向上 1 家畜改良及び飼養管理の改善 (2)	肉用牛 エ 遺伝的能力の評価	・公表
業務に関連する政策・施	食料・農業・農村基本計画、家畜改良増殖目標、酪農及び肉用牛生	当該事業実施に係る根拠	独立行政法人家畜改良センター法第11条第1項第1号
策	産の近代化を図るための基本方針		家畜改良増殖法第3条の4
当該項目の重要度、難易		関連する政策評価・行政事業	行政事業レビューシート事業番号:0028
度		レビュー	行政事業レビューシート事業番号:0035

2	. 主要な経年ラ	ニータ													
	①主要なアウトプット (アウトカム) 情報									②主要なインプット情	報(財務情報	及び人員に関	引する情報、法	人全体)注	
	指標等	達成目標	基準値	X1年度	X2年度	X3年度	X4年度	X5年度			H23 年度	H24 年度	H25 年度	H26 年度	H27 年度
										予算額 (千円)	8,682,884	8,967,108	8,532,098	8,493,261	
										決算額 (千円)	9,127,037	8,572,227	8,651,460	9,160,191	
										経常費用 (千円)	8,923,393	8,388,109	8,227,741	8,675,680	
										経常利益 (千円)	8,826,155	8,412,573	8,168,306	8,670,619	
										行政サービス実施コスト(千円)	8,712,060	8,206,327	7,612,425	7,546,420	
										従事人員数	991	981	972	966	
						\	\			(うち常勤職員)	(807)	(790)	(785)	(765)	
						\	\	\		(うち常勤職員)				(765)	

3.	各事業年度の業務に	「係る目標、計画、	業務実績、年度評	価に係る自己評価及び主務大臣に	こよる評価		
	中期目標	中期計画	年度計画	主な評価指標	法人の業務実績	・自己評価	主務大臣による評価
					業務実績	自己評価	
	(イ) 全国の改良動	(イ) 全国の改良	エ 全国の改良動	S:計画を大きく上回り、かつ顕	<主要な業務実績>	<評定と根拠>	評定 B
	向を把握するため、	動向を把握するた	向を把握するた	著な成果が得られた。	肉用牛枝肉情報全国データ	$\lceil \mathrm{B} floor$	<評定に至った理由>
	遺伝的能力を定期的	め、肉用牛枝肉情	め、肉用牛枝肉情	A:計画を上回る成果が得られた。	ベースに蓄積された情報など	根拠:	計画どおり、黒毛和種、褐毛和種等の遺伝的能力の
	に評価し、公表する。	報全国データベー	報全国データベー	B:計画どおり順調に実施された。	から、黒毛和種、褐毛和種及び	・計画どおり実施した。	評価公表を実施したことから「B」評定とした。
		スに蓄積された情	スに蓄積された情	C:計画どおり実施されず改善を	日本短角種の遺伝的能力を評		
		報等から、黒毛和	報などから、黒毛	要する。	価・公表し、計画どおり実施し		
		種、褐毛和種及び	和種、褐毛和種及	D:計画どおり実施されず当該業	た。		
		日本短角種の遺伝	び日本短角種の遺	務の廃止を含めた抜本的な改善			
		的能力を定期的に	伝的能力を評価	が必要と認められる。			
		評価し、毎年公表	し、公表する。				
		する。					

1. 当事務及び事業に関	する基本情報		
第2-1-(2)-オ	第2 業務の質の向上 1 家畜改良及び飼養管理の改善 (2)	肉用牛 オ 評価手法の改善	
業務に関連する政策・施	食料・農業・農村基本計画、家畜改良増殖目標、酪農及び肉用牛生	当該事業実施に係る根拠	独立行政法人家畜改良センター法第11条第1項第1号
策	産の近代化を図るための基本方針		家畜改良増殖法第3条の4
当該項目の重要度、難易		関連する政策評価・行政事業	行政事業レビューシート事業番号:0028
度		レビュー	行政事業レビューシート事業番号:0035

2. 主要な経年ラ	データ													
① 要なアウ	① 要なアウトプット (アウトカム) 情報									報(財務情報	及び人員に関	引する情報、法	人全体)注	
指標等	達成目標	基準値	X1年度	X2年度	X3年度	X4年度	X5年度			H23 年度	H24 年度	H25 年度	H26 年度	H27 年度
									予算額 (千円)	8,682,884	8,967,108	8,532,098	8,493,261	
									決算額 (千円)	9,127,037	8,572,227	8,651,460	9,160,191	
									経常費用 (千円)	8,923,393	8,388,109	8,227,741	8,675,680	
									経常利益 (千円)	8,826,155	8,412,573	8,168,306	8,670,619	
									行政サービス実施コスト(千円)	8,712,060	8,206,327	7,612,425	7,546,420	
									従事人員数	991	981	972	966	
					\	\			(うち常勤職員)	(807)	(790)	(785)	(765)	

3.	各事業年度の業務	に係る目標、計画、	業務実績、年度評価は	こ係る自己評価及び主務大臣に。	よる評価		
	中期目標	中期計画	年度計画	主な評価指標	法人の業務実績・自	己評価	主務大臣による評価
					業務実績	自己評価	
	(ウ) 肉質以外の早	(ウ) 遺伝的能力	オ 遺伝的能力の評	S:計画を大きく上回り、かつ顕	<主要な業務実績>	<評定と根拠>	評定 B
	熟性、飼料利用性及	評価手法について、	価技術に関する検討	著な成果が得られた。	遺伝的能力の評価技術に関する検討	$\lceil \mathrm{B} floor$	<評定に至った理由>
	び繁殖性に係る形	肉質以外の早熟性、	会を開催し、早熟性及	A:計画を上回る成果が得られた。	会を開催し、早熟性及び繁殖性の遺伝的	根拠:	計画どおり新たな遺伝的能力評価方法の
	質を評価に加味す	飼料利用性及び繁殖	び繁殖性の遺伝的能	B:計画どおり順調に実施された。	能力評価方法の検討を行うとともに、飼	・計画どおり実施した。	検討が実施されたことから「B」評定とした。
	るなど、新たな評価	性に係る形質データ	力評価手法の検討を	C:計画どおり実施されず改善を	料利用性について、日齢枝肉重量とその		
	手法の導入に向け	の収集状況を踏ま	行う。また、飼料利用	要する。	他の枝肉形質間の遺伝相関等の検討を		
	た取組を行う。	え、遺伝的能力の評	性について、日齢枝肉	D:計画どおり実施されず当該業	行い、計画どおり実施した。		
		価技術に関する検討	重量とその他枝肉形	務の廃止を含めた抜本的な改善			
		会を毎年開催し、新	質間の遺伝相関の検	が必要と認められる。			
		たな評価手法の導入	討を行う。				
		に向けた取組を行					
		う。					

1. 当事務及び事業に関	する基本情報		
第2-1-(2)-カ	第2 業務の質の向上 1 家畜改良及び飼養管理の改善 (2)	肉用牛 カ 黒毛和種の多様性	確保及び候補種雄牛等の生産・供給
業務に関連する政策・施	食料・農業・農村基本計画、家畜改良増殖目標、酪農及び肉用牛生	当該事業実施に係る根拠	独立行政法人家畜改良センター法第11条第1項第1号、第2号
策	産の近代化を図るための基本方針		家畜改良増殖法第3条の4
当該項目の重要度、難易		関連する政策評価・行政事業	行政事業レビューシート事業番号:0028
度		レビュー	行政事業レビューシート事業番号:0035

2.	主要な経年デ	デー タ												
	① 要なアウト	トプット(アウ	トカム)情報	Į Ž			②主要なインプット情報(財務情報及び人員に関する情報、法人全体)注							
	指標等	達成目標	基準値	X1年度	X2年度	X3年度	X4年度	X5年度		H23 年度	H24 年度	H25 年度	H26 年度	H27 年度
									予算額 (千円)	8,682,884	8,967,108	8,532,098	8,493,261	
									決算額 (千円)	9,127,037	8,572,227	8,651,460	9,160,191	
									経常費用 (千円)	8,923,393	8,388,109	8,227,741	8,675,680	
									経常利益 (千円)	8,826,155	8,412,573	8,168,306	8,670,619	
									行政サービス実施コスト(千円)	8,712,060	8,206,327	7,612,425	7,546,420	
									従事人員数	991	981	972	966	
							\		(うち常勤職員)	(807)	(790)	(785)	(765)	

3.	各事業年度の業務に係る目標、計画、業務実績、	年度評価に係る自己評価別	及び主務大臣による評価				
	中期目標	中期計画	年度計画	主な評価指標	法人の業務実績	責・自己評価	主務大臣による評価
					業務実績	自己評価	
	(ア) 黒毛和種については、	(ア) 黒毛和種について、	カ 黒毛和種の基礎とな	S:計画を大きく上回り、	<主要な業務実績>	<評定と根拠>	評定 B
	① 多様な育種素材及び都道府県や民間では取り組み	多様な育種素材の導入を行	る4系統群や5つの希少	かつ顕著な成果が得ら	黒毛和種の基礎となる	$\lceil \mathrm{B} floor$	<評定に至った理由>
	難い高度な技術を活用し、遺伝的に特徴ある牛群を維	い、基礎となる4系統群や	系統の育種素材を収集す	れた。	4系統群や5つの希少系	根拠:	計画どおり、牛群の
	持するとともに、我が国の遺伝的多様性の確保や増体	5つの希少系統を積極的に	ることにより遺伝的に特	A:計画を上回る成果が得	統の育種素材を収集し、牛	・計画どおり実施した。	整備等を通じて黒毛和
	性などに配慮した優良な候補種雄牛などを生産する。	活用することにより遺伝的	徴ある牛群を整備すると	られた。	群を整備するとともに、民		種の多様性確保及び候
	② 遺伝的多様性の確保のため、和牛の基礎となる4	に特徴ある牛群を維持する	ともに、遺伝的多様性の	B:計画どおり順調に実施	間等では取り組み難い生		補種雄牛等の生産・供
	系統群や今後失われることが懸念される5つの希少系	とともに、民間等では取り	確保や増体性等に配慮し	された。	体卵胞卵子吸引技術、体外		給に取り組んだところ
	統など※2を積極的に活用し、牛群整備を行う。	組み難い生体卵胞卵子吸引	た優良な候補種雄牛等を	C:計画どおり実施されず	受精技術等の高度な技術		から「B」評定とした。
	③ 増体性に優れた候補種雄牛の生産に当たっては、	技術、体外受精技術等の高	生産・供給する。この場	改善を要する。	を活用し、遺伝的多様性の		
	直接検定成績において1日当たり増体量が概ね1.1	度な技術を活用し、遺伝的	合、民間等では取り組み	D:計画どおり実施されず	確保や増体性等に配慮し		
	k g 以上の候補種雄牛を生産する。	多様性の確保や増体性等に	難い生体卵胞卵子吸引技	当該業務の廃止を含めた	た優良な候補種雄牛等を		
	④ 飼料利用性、早熟性などに関する検定手法の開発	配慮した優良な候補種雄牛	術、体外受精技術等を活	抜本的な改善が必要と認	生産し、21頭の候補種雄		
	に取り組む。	等を生産・供給する。	用する。	められる。	牛を供給し、計画どおり実		
	<以下略>	<以下略>			施した。		

1. 当事務及び事業に関	する基本情報		
第2-1-(2)-キ	第2 業務の質の向上 1 家畜改良及び飼養管理の改善 (2)	肉用牛 キ 増体性に優れる黒	毛和種候補種雄牛の生産
業務に関連する政策・施	食料・農業・農村基本計画、家畜改良増殖目標、酪農及び肉用牛生	当該事業実施に係る根拠	独立行政法人家畜改良センター法第11条第1項第1号、第2号
策	産の近代化を図るための基本方針		家畜改良増殖法第3条の4
当該項目の重要度、難易		関連する政策評価・行政事業	行政事業レビューシート事業番号:0028
度		レビュー	行政事業レビューシート事業番号:0035

データ													
'トプット(ア	ウトカム)情	報				②主要なインプット情	報(財務情報	及び人員に関	引する情報、法	人全体)注			
達成目標	基準値	X1年度	X2年度	X3年度	X4年度	X5年度			H23 年度	H24 年度	H25 年度	H26 年度	H27 年度
								予算額 (千円)	8,682,884	8,967,108	8,532,098	8,493,261	
								決算額 (千円)	9,127,037	8,572,227	8,651,460	9,160,191	
								経常費用 (千円)	8,923,393	8,388,109	8,227,741	8,675,680	
								経常利益 (千円)	8,826,155	8,412,573	8,168,306	8,670,619	
								行政サービス実施コスト(千円)	8,712,060	8,206,327	7,612,425	7,546,420	
								従事人員数	991	981	972	966	
					\			(うち常勤職員)	(807)	(790)	(785)	(765)	
	トプット(ア	トプット(アウトカム)情	トプット(アウトカム)情報	トプット(アウトカム)情報	トプット(アウトカム)情報	トプット(アウトカム)情報	トプット(アウトカム)情報	トプット(アウトカム)情報	トプット (アウトカム) 情報 ②主要なインプット情報 達成目標 基準値 X1年度 X2年度 X3年度 X4年度 X5年度 予算額 (千円) 決算額 (千円) 経常利益 (千円) 行政サービス実施コスト (千円) 従事人員数	トプット (アウトカム) 情報 達成目標 基準値 X1年度 X2年度 X3年度 X4年度 X5年度 一学算額(千円) 8,682,884 決算額(千円) 9,127,037 経常費用(千円) 8,826,155 行政サービス実施コスト(千円) 8,712,060 従事人員数 991	トプット (アウトカム) 情報 ②主要なインプット情報 (財務情報及び人員に関連を成目標 基準値 X1年度 X3年度 X3年度 X4年度 X5年度	トプット (アウトカム) 情報 達成目標 基準値 X1年度 X2年度 X3年度 X4年度 X5年度 一方変報 1 1 2 3 2 3 2 3 2 3 2 3 <td> では、</td>	では、

3.	各事業年度の業務に係る目標、計画、業務実績、年度	要評価に係る自己評価	価及び主務大臣は	こよる評価			
	中期目標	中期計画	年度計画	主な評価指標	法人の業務実績	責・自己評価	主務大臣による評価
					業務実績	自己評価	
	(ア) 黒毛和種については、	(イ) 増体性に優れ	キ 増体性に優	指標=1日あたり増体量	<主要な業務実績>	<評定と根拠>	評定 B
	① 多様な育種素材及び都道府県や民間では取り組み難い	た黒毛和種候補種雄	れた黒毛和種候	S:計画の120%以上で	増体性に優れた黒毛	$\lfloor B floor$	<評定に至った理由>
	高度な技術を活用し、遺伝的に特徴ある牛群を維持すると	牛の生産に当たって	補種雄牛の生産	あり、かつ、特に優れた	和種候補種雄牛を生産	根拠:	計画どおり、目標を満たす増体能力
	ともに、我が国の遺伝的多様性の確保や増体性などに配慮	は、適度に脂肪交雑	に当たっては、	成果が認められる。	するため、遺伝子保有	・直接検定を実施16	を有する候補種雄牛が生産されたこと
	した優良な候補種雄牛などを生産する。	を維持しつつ、毎年	直接検定成績に	A:計画の120%以上	確率等を活用して選抜	頭の1日当たり増体	から「B」評定とした。
	② 遺伝的多様性の確保のため、和牛の基礎となる4系統	遺伝的能力評価等を	おいて1日当た	B:計画の100%以上、	した雄子牛16頭につ	量の平均値は1.13	
	群や今後失われることが懸念される5つの希少系統など※	活用することによ	り増体量が概ね	120%未満	いて直接検定☆を実施	kgであり、目標の	
	2 を積極的に活用し、牛群整備を行う。	り、直接検定成績に	1. 1 k g以上	C:計画の80%以上、	した。これら16頭の	1.1kg以上を達成	
	③ 増体性に優れた候補種雄牛の生産に当たっては、直接	おいて1日当たり増	の候補種雄牛を	100%未満	1日当たり増体量の平	した。	
	検定成績において1日当たり増体量が概ね1. 1kg以上	体量が概ね1.1 k	生産する。	D:計画の80%未満、又	均値は1.13kgで		
	の候補種雄牛を生産する。	g以上の候補種雄牛		は業務運営の改善等必	あり、目標の1.1k		
	④ 飼料利用性、早熟性などに関する検定手法の開発に取	を生産する。		要な措置が必要と認め	g以上を達成した。		
	り組む。			られる。			
	<以下略>						

1. 当事務及び事業に関する基本情報	
第2-1-(2)-ク 第2 業務の質の向上 1 家畜改良及び飼養管理の	女善(2)肉用牛 ク 黒毛和種における飼料利用性、早熟性等に関する検定手法の開発
業務に関連する政策・施食料・農業・農村基本計画、家畜改良増殖目標、酪農力	なび肉用牛生 当該事業実施に係る根拠 独立行政法人家畜改良センター法第11条第1項第1号
策 産の近代化を図るための基本方針	家畜改良増殖法第3条の4
当該項目の重要度、難易	関連する政策評価・行政事業 行政事業レビューシート事業番号:0028
度	

2	2. 主要な経年データ														
	①主要なアウ	トプット(ア	ウトカム)情報					②主要なインプット情報	報(財務情報	及び人員に関	引する情報、法	人全体)注			
	指標等	達成目標	基準値	X1年度	X2年度	X3年度	X4年度	X5年度			H23 年度	H24 年度	H25 年度	H26 年度	H27 年度
										予算額 (千円)	8,682,884	8,967,108	8,532,098	8,493,261	
										決算額 (千円)	9,127,037	8,572,227	8,651,460	9,160,191	
										経常費用 (千円)	8,923,393	8,388,109	8,227,741	8,675,680	
										経常利益 (千円)	8,826,155	8,412,573	8,168,306	8,670,619	
										行政サービス実施コスト (千円)	8,712,060	8,206,327	7,612,425	7,546,420	
										従事人員数	991	981	972	966	
				\			\			(うち常勤職員)	(807)	(790)	(785)	(765)	

3. 各事業年度の業務に係る目標、計画、業務実績、	年度評価に係る自己	評価及び主務大臣に	よる評価				
中期目標	中期計画	年度計画	主な評価指標	法人の業務実績・	自己評価	主務大日	三による評価
				業務実績	自己評価		
(ア) 黒毛和種については、	(ウ) 飼料利用性、	ク 黒毛和種の飼料	S:計画を大きく上回り、か	<主要な業務実績>	<評定と根拠>	評定	В
① 多様な育種素材及び都道府県や民間では取り組み	早熟性等に関して、	利用性、早熟性等に	つ顕著な成果が得られた。	黒毛和種の飼料利用性、早熟	$\lceil \mathrm{B} floor$	<評定に至ん	った理由>
難い高度な技術を活用し、遺伝的に特徴ある牛群を維持	これらに係る形質デ	ついて、これら形質	A:計画を上回る成果が得ら	性等について、これらに係る形	根拠:	計画どお	り検定手法の開
するとともに、我が国の遺伝的多様性の確保や増体性な	ータの収集を継続的	データを収集するた	れた。	質データを収集するための調	・計画どおり実施し	発に向けた	検討会の開催や
どに配慮した優良な候補種雄牛などを生産する。	に行い、検討会を毎	めの調査を行うとと	B:計画どおり順調に実施さ	査を行うとともに、学識経験者	た。	飼料利用性	等の調査に都K
② 遺伝的多様性の確保のため、和牛の基礎となる4系	年開催し、検定手法	もに、有識者等から	れた。	などから構成される検討会を		取り組んだる	ことから「B」評
統群や今後失われることが懸念される5つの希少系統	の開発に取り組む。	構成される検討会を	C:計画どおり実施されず改	平成26年12月に開催し、検		定とした。	
など※2を積極的に活用し、牛群整備を行う。		開催する。	善を要する。	定手法について検討するとと			
③ 増体性に優れた候補種雄牛の生産に当たっては、直			D:計画どおり実施されず当	もに、調査牛を65頭生産し、			
接検定成績において1日当たり増体量が概ね1.1 kg			該業務の廃止を含めた抜本	また、平成26年4月までに生			
以上の候補種雄牛を生産する。			的な改善が必要と認めら	産した調査牛48頭の調査を			
④ 飼料利用性、早熟性などに関する検定手法の開発に			れる。	開始し、計画どおり実施した。			
取り組む。							

1. 当事務及び事業に関	する基本情報		
第2-1-(2)-ケ	第2 業務の質の向上 1 家畜改良及び飼養管理の改善 (2)	肉用牛 ケ 褐毛和種の多様性研	権保及び種畜の生産・供給
業務に関連する政策・施	食料・農業・農村基本計画、家畜改良増殖目標、酪農及び肉用牛生	当該事業実施に係る根拠	独立行政法人家畜改良センター法第11条第1項第1号、第2号
策	産の近代化を図るための基本方針		家畜改良増殖法第3条の4
当該項目の重要度、難易		関連する政策評価・行政事業	行政事業レビューシート事業番号:0028
度		レビュー	行政事業レビューシート事業番号:0035

2. 主要な経年ラ	データ												
①主要なアウ	トプット(ア	ウトカム) 情	幸報			②主要なインプット情	報(財務情報	及び人員に関	引する情報、法	人全体)注			
指標等	達成目標	基準値	X1年度	X2年度	X3年度	X4年度	X5年度		H23 年度	H24 年度	H25 年度	H26 年度	H27 年度
								予算額 (千円)	8,682,884	8,967,108	8,532,098	8,493,261	
								決算額 (千円)	9,127,037	8,572,227	8,651,460	9,160,191	
								経常費用 (千円)	8,923,393	8,388,109	8,227,741	8,675,680	
								経常利益 (千円)	8,826,155	8,412,573	8,168,306	8,670,619	
								行政サービス実施コスト(千円)	8,712,060	8,206,327	7,612,425	7,546,420	
								従事人員数	991	981	972	966	
	\		\	\	\	\	\	(うち常勤職員)	(807)	(790)	(785)	(765)	

3. 各事業年度の業績	事業年度の業務に係る目標、計画、業務実績、年度評価に係る自己評価及び主務大臣による評価							
中期目標	中期計画	年度計画	主な評価指標	法人の業務実績・	自己評価	主務大臣によ	る評価	
				業務実績	自己評価			
(イ) 褐毛和種に	(エ) 褐毛和種について、	ケ 褐毛和種につい	S:計画を大きく上回り、かつ	<主要な業務実績>	<評定と根拠>	評定	3	
ついては、我が国	関係都道府県等より育種	て、多様な育種素材を	顕著な成果が得られた。	褐毛和種について、関係都道	$\lceil \mathrm{B} floor$	<評定に至った理由>		
の肉用牛の多様	素材を収集することによ	収集することにより遺	A:計画を上回る成果が得ら	府県等より多様な育種素材を収	根拠:	計画どおり育種素材の収集	、種畜の生産供給を実	
性を確保するた	り、多様な育種素材の導	伝的に特徴のある牛群	れた。	集し、牛群を維持するとともに、	・計画どおり実施し	施したことから「B」評定と	した。	
め、遺伝的に特徴	入を行い、遺伝的に特徴	を維持し、種畜を生	B:計画どおり順調に実施され	卵巣から採取した卵子を利用し	た。			
のある牛群を維	のある牛群を維持し、卵	産・供給する。この場	た。	た体外受精等の高度な技術を活				
持し、種畜を生	巣から採取した卵子を利	合、卵巣から採取した	C:計画どおり実施されず改善	用して種畜を生産し、後代検定				
産・供給する。	用した体外受精技術等の	卵子を利用した体外受	を要する。	候補種雄牛として1頭を供給				
	民間等では取り組み難い	精等の高度な技術を活	D:計画どおり実施されず当該	し、計画どおり実施した。				
	高度な技術を活用しつ	用する。	業務の廃止を含めた抜本的な					
	つ、種畜を生産・供給す		改善が必要と認められる。					
	る。							

1. 当事務及び事業に関	する基本情報		
第2-1-(2)-コ	第2 業務の質の向上 1 家畜改良及び飼養管理の改善 (2)	肉用牛 コ 日本短角種の多様性	生確保及び育種改良素材の生産・供給
業務に関連する政策・施	食料・農業・農村基本計画、家畜改良増殖目標、酪農及び肉用牛生	当該事業実施に係る根拠	独立行政法人家畜改良センター法第11条第1項第1号、第2号
策	産の近代化を図るための基本方針		家畜改良増殖法第3条の4
当該項目の重要度、難易		関連する政策評価・行政事業	行政事業レビューシート事業番号:0028
度		レビュー	行政事業レビューシート事業番号:0035

. 主要な経年テ	主要な経年データ													
①主要なアウトプット(アウトカム)情報							②主要なインプット情報(財務情報及び人員に関する情報、法人全体)注							
指標等	達成目標	基準値	X1年度	X2年度	X3年度	X4年度	X5年度			H23 年度	H24 年度	H25 年度	H26 年度	H27 年度
									予算額 (千円)	8,682,884	8,967,108	8,532,098	8,493,261	
									決算額 (千円)	9,127,037	8,572,227	8,651,460	9,160,191	
									経常費用 (千円)	8,923,393	8,388,109	8,227,741	8,675,680	
									経常利益 (千円)	8,826,155	8,412,573	8,168,306	8,670,619	
									行政サービス実施コスト(千円)	8,712,060	8,206,327	7,612,425	7,546,420	
									従事人員数	991	981	972	966	
			\			\			(うち常勤職員)	(807)	(790)	(785)	(765)	

					一 ・ / に が 一 こ (=) ド	4 0 (1 01 1C 1) (12) (12)	· 3/10 C 10 +/	
3.	3. 各事業年度の業務に係る目標、計画、業務実績、年度評価に係る自己評価及び主務大臣による評価							
	中期目標	中期計画	年度計画	主な評価指標	法人の業務実績	・自己評価	主務大臣に	こよる評価
					業務実績	自己評価		
	(ウ) 日本短角種に	(才) 日本短角	コ 日本短角種につ	S:計画を大きく上回り、かつ顕著な成果	<主要な業務実績>	<評定と根拠>	評定	В
	ついては、我が国の	種については、我	いて、遺伝的に特徴	が得られた。	日本短角種について、「日本	$\lfloor B floor$	<評定に至った理由>	>
	肉用牛の多様性を確	が国の肉用牛の多	のある牛群を維持	A:計画を上回る成果が得られた。	短角種の振興に係る意見交換	根拠:	計画どおり、育種素	尽材の生産供給を実施
	保するため、遺伝的	様性を確保するた	し、育種改良素材を	B:計画どおり順調に実施された。	会」を平成27年2月に開催す	・計画どおり実施した。	したことから「B」割	戸定とした。
	に特徴のある牛群を	め、関係都道府県	必要に応じて生産・	C:計画どおり実施されず改善を要する。	るなど、関係都道府県等と協議			
	維持し、センターの	等より育種素材を	供給する。この場合、	D:計画どおり実施されず当該業務の廃止	しつつ遺伝的に特徴のある牛群			
	保有する家畜を、育	収集することによ	必要に応じて関係都	を含めた抜本的な改善が必要と認められ	を維持し、育種改良素材を必要			
	種改良素材として必	り、遺伝的に特徴	道府県等と協議しつ	る。	に応じて生産・供給し、計画ど			
	要に応じて提供す	のある牛群を維持	つ育種素材を収集す		おり実施した。			
	る。	し、育種改良素材	る。					
		を生産・供給する。						

1. 当事務及び事業に関	する基本情報		
第2-1-(3)	第2 業務の質の向上 1 家畜改良及び飼養管理の改善 (3)	豚	
業務に関連する政策・施	食料・農業・農村基本計画、家畜改良増殖目標	当該事業実施に係る根拠	独立行政法人家畜改良センター法第11条第1項第1号、第2号
策			家畜改良増殖法第3条の4
当該項目の重要度、難易		関連する政策評価・行政事業	行政事業レビューシート事業番号:0028
度		レビュー	行政事業レビューシート事業番号:0035

2. 主要な経年	. 主要な経年データ													
①主要なアウ	·トプット(アウ	トカム)情報							②主要なインプット情	報(財務情報	及び人員に関	引する情報、法	人全体)注	
指標等	達成目標	基準値	X1年度	X2年度	X3年度	X4年度	X5年度			H23 年度	H24 年度	H25 年度	H26 年度	H27 年度
									予算額 (千円)	8,682,884	8,967,108	8,532,098	8,493,261	
									決算額 (千円)	9,127,037	8,572,227	8,651,460	9,160,191	
									経常費用 (千円)	8,923,393	8,388,109	8,227,741	8,675,680	
									経常利益 (千円)	8,826,155	8,412,573	8,168,306	8,670,619	
									行政サービス実施コスト (千円)	8,712,060	8,206,327	7,612,425	7,546,420	
									従事人員数	991	981	972	966	
			\	\		\			(うち常勤職員)	(807)	(790)	(785)	(765)	

3.	各事業年度の業務に	に係る目標、計画、業務	· 等実績、年度語	平価に係る自己評価及び主務大臣による	評価			
	中期目標	中期計画	年度計画	主な評価指標	法人の業務等	実績・自己	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	主務大臣による評価
					業務実績		自己評価	
	国際化の進展や長	国際化の進展や長期	(3) 豚	指標=「細項目の項目数×2」(満点) に対	□全国的な豚の改良推進	2/2(B)	<評定と根拠>	評定 B
	期的な飼料穀物需給	的な飼料穀物需給のひ	<以下略>	する「各細項目の点数の合計値」(合計点)	□遺伝的能力の評価の実施・公	表	$\lceil \mathrm{B} floor$	<評定に至った理由>
	のひっ迫などに対応	っ迫等に対応した競争		の比率各細項目の評価点数の区分は以下の		2/2(B)	満点:12P(細項目	下記のとおり、下位の評価項目である細項
	した競争力のある豚	力のある豚肉生産を維		とおりとする。	□評価手法の改善	2/2(B)	$6 \times 2 P$)	目の合計点がB評定の判定基準内(満点×8/
	肉生産を維持するた	持するため、遺伝子解		S評価:4点、A評価:3点、B評価:	□雌系品種の繁殖性改良	2/2(B)	合計:12P	10≦合計点<12/10) であったため。
	め、純粋種豚の繁殖	析技術を駆使して繁殖		2点、C評価:1点、D評価:0点	□雄系品種の肉質改良	2/2(B)	12P/12P	満 点:12点(小項目6×2点)
	能力や肉質を含めた	能力に優れる雌系純粋			□実験用小型ブタの維持・供給	•	=1.0(10/	合計点:12点=2点× 6
	産肉能力の向上を図	種豚の改良を進めると		A:満点×12/10≦合計点		2/2(B)	10)	12点/12点=1.0(10/10)
	り、特長ある豚肉の	ともに、ロース芯筋内		B:満点×8/10≦合計点<満点×12				□全国的な豚の改良推進 2点(B)
	生産に向けた改良を	脂肪含量が多い雄系純		/1 0				□遺伝的能力の評価の実施・公表 2点(B)
	推進する。このため、	粋種豚の改良を進め		C:満点×5/10≦合計点<満点×8/10				□評価手法の改善2点(B)
	以下の取組を行う。	る。このため、以下の		D:合計点≦満点×5/10				□雌系品種の繁殖性改良 2点(B)
		取組を行う。						□雄系品種の肉質改良 2点(B)
								□実験用小型ブタの維持・供給 2点(B)
								合 計 点 12点

4. その他参考情報			

1. 当事務及び事業に関する基本情報		
第2-1-(3)-ア 第2 業務の質の向上 1 家畜改良及び飼養管理の改善 (3) 豚	ア 全国的な豚の改良推進	
業務に関連する政策・施 食料・農業・農村基本計画、家畜改良増殖目標	当該事業実施に係る根拠	独立行政法人家畜改良センター法第11条第1項第1号
策		家畜改良増殖法第3条の4
当該項目の重要度、難易	関連する政策評価・行政事業	行政事業レビューシート事業番号:0028
度	レビュー	行政事業レビューシート事業番号:0035

2. 主要な経年データ

①主要なア	ウトプット(アウ	アトカム) 情報						②主要なインプット情	報(財務情報	及び人員に関	引する情報、法	人全体)注	
指標等	達成目標	基準値	X1年度	X2年度	X3年度	X4年度	X5年度		H23 年度	H24 年度	H25 年度	H26 年度	H27 年度
								予算額 (千円)	8,682,884	8,967,108	8,532,098	8,493,261	
								決算額 (千円)	9,127,037	8,572,227	8,651,460	9,160,191	
								経常費用 (千円)	8,923,393	8,388,109	8,227,741	8,675,680	
								経常利益 (千円)	8,826,155	8,412,573	8,168,306	8,670,619	
								行政サービス実施コスト(千円)	8,712,060	8,206,327	7,612,425	7,546,420	
								従事人員数	991	981	972	966	
		\	\		\	\		(うち常勤職員)	(807)	(790)	(785)	(765)	

注:業務ごとに算出していないため、法人全体の数値を掲載

3.	各事業年度の業務に位	系る目標、計画、業務実績、年度	評価に係る自己評価及び主務	大臣による評価			
	中期目標	中期計画	年度計画	主な評価指標	法人の業務実績・	自己評価	主務大臣による評価
					業務実績	自己評価	
	(ア) 全国的な豚の改	(ア) 全国的な豚の改良推進を図る	ア農林水産省、都道府県、関	S:計画を大きく上回り、かつ	<主要な業務実績>	<評定と根拠>	評定 B
	良推進を図るため、農	ため、センターが農林水産省、都道	係団体、生産者及び学識経験者	顕著な成果が得られた。	農林水産省、都道府県、関係団体、	$\lceil \mathrm{B} floor$	<評定に至った理由>
	林水産省、都道府県、	府県、関係団体、生産者及び学識経	の参画を得て、全国的な豚の改	A:計画を上回る成果が得られ	生産者及び学識経験者の参画を得	根拠:	農林水産省、都道府県、関
	関係団体、生産者及び	験者を参集して会議を開催し、我が	良推進に関する会議を開催し、	た。	て、全国的な豚の改良推進に関する	・計画どおり実施した。	係団体、生産者及び学識経験
	学識経験者との意見・	国における家畜改良の方向性に沿	センターが実施する遺伝的能	B:計画どおり順調に実施され	会議を平成27年2月に開催し、セ		者の参画を得て豚の改良推
	情報交換において、積	ったセンターの業務のあり方につ	力評価、種豚の作出のあり方に	た。	ンターが実施する遺伝的能力評価、		進に関する会議を開催する
	極的に指導的役割を果	いて意見・情報交換を行い、業務に	ついて意見・情報交換を行う。	C:計画どおり実施されず改善	種豚の作出のあり方について意		等全国的な豚の改良推進に
	たすとともに、都道府	反映する。また、農林水産省、都道	また、農林水産省、都道府県、	を要する。	見・情報交換等を行った。また、試		取り組んだことから「B」評
	県、関係団体などとの	府県、関係団体等が開催する家畜改	関係団体等が開催する家畜改	D:計画どおり実施されず当該	験研究機関及び関係団体が開催す		定とした。
	役割分担の明確化を図	良に関する各種会議に積極的に参	良に関する各種会議に積極的	業務の廃止を含めた抜本的	る家畜改良に関する各種会議に積		
	る。	画し、技術的助言、連携協力を行う	に参画する。	な改善が必要と認められる。	極的に参画し、計画どおり実施し		
		等指導的な役割を果たす。			た。		

1. 当事務及び事業に関する基本情報		
第2-1-(3)-イ 第2 業務の質の向上 1 家畜改良及び飼養管理の改善 (3)	豚 イ 遺伝的能力の評価の実施	施・公表
業務に関連する政策・施 食料・農業・農村基本計画、家畜改良増殖目標	当該事業実施に係る根拠	独立行政法人家畜改良センター法第11条第1項第1号
策		家畜改良増殖法第3条の4
当該項目の重要度、難易	関連する政策評価・行政事業	行政事業レビューシート事業番号:0028
度	レビュー	行政事業レビューシート事業番号:0035

2.	. 主要な経年	ミデータ								
	①主要なア	ウトプット(フ	アウトカム)情	報					②主要なインプット情報	報(
	指標等	達成目標	基準値	X1年度	X2年度	X3年度	X4年度	X5年度		H
									予算額 (千円)	
									決算額 (千円)	
									経常費用 (千円)	
									経常利益 (千円)	
									行政サービス実施コスト (千円)	
									従事人員数	
					,		\		(うち常勤職員)	

②主要なインプット情報(財務情報及び人員に関する情報、法人全体)注									
	H23 年度 H24 年度 H25 年度 H		H26 年度	H27 年度					
予算額 (千円)	8,682,884	8,967,108	8,532,098	8,493,261					
決算額 (千円)	9,127,037	8,572,227	8,651,460	9,160,191					
経常費用 (千円)	8,923,393	8,388,109	8,227,741	8,675,680					
経常利益 (千円)	8,826,155	8,412,573	8,168,306	8,670,619					
行政サービス実施コスト(千円)	8,712,060	8,206,327	7,612,425	7,546,420					
従事人員数	991	981	972	966					
(うち常勤職員)	(807)	(790)	(785)	(765)					

					任・未得	らことに昇山していないにめ、	仏八土件の数旧で地戦	
3.	各事業年度の業務に	「係る目標、計画、	業務実績、年度評	価に係る自己評価及び主務大	臣による評価			
	中期目標	中期計画	年度計画	主な評価指標	法人の業務実績	・自己評価	主務大臣による評価	
					業務実績	自己評価		
	バークシャー種な	(ア) バークシ	イ バークシャー	S:計画を大きく上回り、か	<主要な業務実績>	<評定と根拠>	評定	В
	どについて、遺伝的	ャー種、ランドレ	種、ランドレース	つ顕著な成果が得られた。	バークシャー種、ランドレー	$\lceil B floor$	<評定に至った理由>	
	能力評価を定期的に	ース種、大ヨーク	種、大ヨークシャ	A:計画を上回る成果が得られ	ス種、大ヨークシャー種及びデ	根拠:	計画どおり、主要品種の種朋	Kの遺伝的評価を定期的に
	実施するとともに、	シャー種及びデュ	ー種及びデュロッ	た。	ュロック種について、種豚の遺	・計画どおり実施した。	実施し、公表したことから「E	3」評定とした。
	肢蹄について遺伝的	ロック種につい	ク種について、種	B:計画どおり順調に実施され	伝的能力評価を4回定期的に			
	能力評価手法の開発	て、種豚の遺伝的	豚の遺伝的能力評	た。	実施し公表するなど、計画どお			
	に取り組む。	能力評価を毎年4	価を4回定期的に	C:計画どおり実施されず改善	り順調に実施した。			
		回定期的に実施し	実施し公表する。	を要する。				
		公表する		D:計画どおり実施されず当該				
				業務の廃止を含めた抜本的				
				な改善が必要と認められる。				

1. 当事務及び事業に関する基本情報										
第2-1-(3)-ウ 第2 業務の質の向上 1 家畜改良及び飼養管理の改善 (3)	豚 ウ 評価手法の改善									
業務に関連する政策・施 食料・農業・農村基本計画、家畜改良増殖目標	当該事業実施に係る根拠	独立行政法人家畜改良センター法第11条第1項第1号								
策		家畜改良増殖法第3条の4								
当該項目の重要度、難易	関連する政策評価・行政事業	行政事業レビューシート事業番号:0028								
度	レビュー	行政事業レビューシート事業番号:0035								

2	. 主要な経年ラ	データ												
	①主要なアウトプット(アウトカム)情報								②主要なインプット情報(財務情報及び人員に関する情報、法人全体)注					
	指標等	達成目標	基準値	X1年度	X2年度	X3年度	X4年度	X5年度		H23 年度	H24 年度	H25 年度	H26 年度	H27 年度
									予算額 (千円)	8,682,884	8,967,108	8,532,098	8,493,261	
									決算額 (千円)	9,127,037	8,572,227	8,651,460	9,160,191	
									経常費用 (千円)	8,923,393	8,388,109	8,227,741	8,675,680	
									経常利益 (千円)	8,826,155	8,412,573	8,168,306	8,670,619	
									行政サービス実施コスト(千円)	8,712,060	8,206,327	7,612,425	7,546,420	
									従事人員数	991	981	972	966	
						\	\	\	(うち常勤職員)	(807)	(790)	(785)	(765)	

3.	各事業年度の業務に	上係る目標、計画、業務	秀実績、年度評価に係	る自己評価及び主務大臣による	評価		
	中期目標	中期計画	年度計画	主な評価指標	法人の業務実	績・自己評価	主務大臣による評価
					業務実績	自己評価	
	バークシャー種な	(イ) 遺伝的能力の	ウ 遺伝的能力の評	S:計画を大きく上回り、かつ	<主要な業務実績>	<評定と根拠>	評定 B
	どについて、遺伝的	評価技術に関する検討	価技術に関する検討	顕著な成果が得られた。	遺伝的能力の評価技術	$\lceil \mathrm{B} floor$	<評定に至った理由>
	能力評価を定期的に	会を毎年開催し、肢蹄	会を開催し、肢蹄のつ	A:計画を上回る成果が得られ	に関する検討会を開催し、	根拠:	計画どおり、豚の遺伝的能力手法の開発に取り組
	実施するとともに、	のつなぎに関するデー	なぎに関するデータ	た。	収集した肢蹄のつなぎに	・計画どおり実施した。	んでいることから「B」評価とした。
	肢蹄について遺伝的	タを収集し、このデー	収集に取り組みつつ	B:計画どおり順調に実施され	関するデータをもとに遺		
	能力評価手法の開発	タを活用して遺伝的能	遺伝的能力評価手法	た。	伝的能力評価手法の検討		
	に取り組む。	力評価手法の開発に必	の検討を行う。	C:計画どおり実施されず改善	を行い、計画どおり実施し		
		要な遺伝的パラメータ		を要する。	た。		
		を平成27年度末まで		D:計画どおり実施されず当該			
		に推定する。		業務の廃止を含めた抜本的な			
				改善が必要と認められる。			

1. 当事務及び事業に関する基本情報										
第2-1-(3)-エ 第2 業務の質の向 1 家畜改良及び飼養管理の改善 (3) №	ア									
業務に関連する政策・施 食料・農業・農村基本計画、家畜改良増殖目標	当該事業実施に係る根拠	独立行政法人家畜改良センター法第11条第1項第1号								
策		家畜改良増殖法第3条の4								
当該項目の重要度、難易	関連する政策評価・行政事業	行政事業レビューシート事業番号:0028								
度	レビュー	行政事業レビューシート事業番号:0035								

. 主要な経年ラ	主要な経年データ													
①主要なアウトプット(アウトカム)情報									②主要なインプット情	報(財務情報	及び人員に関	引する情報、法	人全体)注	
指標等	達成目標	基準値	X1年度	X2年度	X3年度	X4年度	X5年度			H23 年度	H24 年度	H25 年度	H26 年度	H27 年度
									予算額 (千円)	8,682,884	8,967,108	8,532,098	8,493,261	
									決算額 (千円)	9,127,037	8,572,227	8,651,460	9,160,191	
									経常費用 (千円)	8,923,393	8,388,109	8,227,741	8,675,680	
									経常利益 (千円)	8,826,155	8,412,573	8,168,306	8,670,619	
									行政サービス実施コスト(千円)	8,712,060	8,206,327	7,612,425	7,546,420	
									従事人員数	991	981	972	966	
			\		\	\	\		(うち常勤職員)	(807)	(790)	(785)	(765)	

3.	各事業年度の業務に係	る目標、計画、業務実績、年度評	価に係る自己評価及び	が主務大臣による評価			
	中期目標	中期計画	年度計画	主な評価指標	法人の業務実績	責・自己評価	主務大臣による評価
					業務実績	自己評価	
	(ア) 増体性や飼料利用	(ア)増体性や飼料利用性の改良のほ	エ 繁殖能力に優れ	S:計画を大きく上回り、	<主要な業務実績>	<評定と根拠>	評定 B
	性の改良のほか、繁殖性	か、繁殖性の向上を図るため、雌系品	る種豚を作出するた	かつ顕著な成果が得ら	繁殖能力に優れる種豚を作	ГВЈ	<評定に至った理由>
	の向上を図るため、雌系	種として利用される大ヨークシャー	め、造成した大ヨーク	れた。	出するため、開放的育種手法に	根拠:	計画どおり大ヨークシャー種の育種
	品種として利用される	種について、雌豚群120頭規模の改	シャー種の改良用群	A:計画を上回る成果が	より造成した大ヨークシャー	・計画どおり実施した。	選抜に取り組んだことから「B」評定
	大ヨークシャー種につ	良用群を造成し、より早期の能力向上	について、繁殖性に関	得られた。	種の改良用群について、繁殖性	・繁殖性の改良に有意な遺	とした。
	いて、遺伝子解析技術を	が可能となる開放的育種手法を活用	係する遺伝情報を活	B:計画どおり順調に実	の改良に有意な遺伝子情報を	伝子情報を活用した選抜を	
	活用した新たな育種手	するとともに、遺伝子解析技術を活用	用した選抜を実施す	施された。	活用した選抜(一次選抜時)を	行い、選抜の効果を実証す	
	法の開発に取り組み、繁	した新たな育種手法の開発に取り組	るとともに、選抜の効	C:計画どおり実施され	実施するとともに、選抜の効果	るための交配を実施した。	
	殖能力に優れる種豚を	み、得られた繁殖性に関係する遺伝情	果を実証するための	ず改善を要する。	を実証するための交配を行い、	・繁殖性の検証は平成27	
	作出する。この場合、一	報を活用することにより、繁殖能力に	交配を実施する。	D:計画どおり実施され	計画どおり実施した。	年度に実施する。	
	腹当たり育成頭数につ	優れる種豚を作出する。この場合、一		ず当該業務の廃止を含			
	いては、概ね10.5頭	腹当たり育成頭数については、概ね		めた抜本的な改善が必			
	とする。	10.5頭とする。		要と認められる。			

1. 当事務及び事業に関する基本情報										
第2-1-(3)-オ 第2 業務の質の向上 1 家畜改良及び飼養管理の改善 (3	3) 豚 オ 雄系品種の肉質改良									
業務に関連する政策・施 食料・農業・農村基本計画、家畜改良増殖目標	当該事業実施に係る根拠	独立行政法人家畜改良センター法第11条第1項第1号								
策		家畜改良増殖法第3条の4								
当該項目の重要度、難易	関連する政策評価・行政事業	行政事業レビューシート事業番号:0028								
度	レビュー	行政事業レビューシート事業番号:0035								

2.	. 主要な経年データ														
	①主要なアウトプット (アウトカム) 情報									②主要なインプット情報(財務情報及び人員に関する情報、法人全体)注					
	指標等	達成目標	基準値	X1年度	X2年度	X3年度	X4年度	X5年度			H23 年度	H24 年度	H25 年度	H26 年度	H27 年度
										予算額 (千円)	8,682,884	8,967,108	8,532,098	8,493,261	
										決算額 (千円)	9,127,037	8,572,227	8,651,460	9,160,191	
										経常費用 (千円)	8,923,393	8,388,109	8,227,741	8,675,680	
										経常利益 (千円)	8,826,155	8,412,573	8,168,306	8,670,619	
										行政サービス実施コスト(千円)	8,712,060	8,206,327	7,612,425	7,546,420	
										従事人員数	991	981	972	966	
				\		\	\	\		(うち常勤職員)	(807)	(790)	(785)	(765)	

3.	各事業年度の業務に	工係る目標、計画、業務実績	、年度評価に係る自己評	価及び主務大臣による評価			
	中期目標	中期計画	年度計画	主な評価指標	法人の業務実施	績・自己評価	主務大臣による評価
					業務実績	自己評価	
	(イ) 都道府県な	(イ) 都道府県等が行う系	オ 肉質に優れる種豚を	S:計画を大きく上回り、かつ	<主要な業務実績>	<評定と根拠>	評定 B
	どが行う系統造成を	統造成を支援するため、雄系	作出するため、デュロック	顕著な成果が得られた。	肉質に優れる種豚を作	$\lceil \mathrm{B} floor$	<評定に至った理由>
	支援するため、雄系	品種として利用されるデュロ	種について、雄10頭、雌	A:計画を上回る成果が得られ	出するため、デュロック	根拠:	計画どおり、デュロック種について、肉質に優
	品種として利用され	ック種について、雄10頭・	30頭規模の改良用豚群	た。	種について、雄10頭、	・計画どおり実施した。	れる種豚の作出に取り組んだことから「B」評定
	るデュロック種につ	雌30頭規模の改良用豚群を	を用いて、閉鎖的育種手法	B:計画どおり順調に実施され	雌30頭規模の改良用豚		とした。
	いて、肉質に優れる	造成し、群内の血縁を高め、	により、次世代の選抜、交	た。	群を用いて、閉鎖的育種		
	種豚の作出に取り組	能力のバラツキが小さくなる	配、次世代候補豚の生産及	C:計画どおり実施されず改善	手法により第4世代の選		
	む。この場合、ロー	閉鎖的育種手法を活用するこ	び検定を行う。この場合、	を要する。	抜、交配、第5世代候補		
	ス芯筋内脂肪含量に	とにより、肉質に優れる種豚	次世代候補豚の検定に当	D:計画どおり実施されず当該	豚の生産及び産肉能力検		
	ついては、概ね6%	の作出に取り組む。この場合、	たっては、きょうだい豚に	業務の廃止を含めた抜本的	定を行うとともに、きょ		
	とする。	ロース芯筋内脂肪含量につい	ついてと体調査及び肉質	な改善が必要と認められる。	うだい豚のと体調査及び		
		ては、概ね6%とする。	の理化学分析を実施する。		肉質の理化学分析を行		
					い、計画どおり実施した。		

1. 当事務及び事業に関する基準	1. 当事務及び事業に関する基本情報											
第2-1-(3)-カ 第2	業務の質の向上 1 家畜改良及び飼養管理の改善 (3)豚 カ 実験用子型ブタの維持	• 供給									
業務に関連する政策・施食料・	・農業・農村基本計画、家畜改良増殖目標	当該事業実施に係る根拠	独立行政法人家畜改良センター法第11条第1項第1号、第2号									
策			家畜改良増殖法第3条の4									
当該項目の重要度、難易		関連する政策評価・行政事業	行政事業レビューシート事業番号:0028									
度		レビュー	行政事業レビューシート事業番号:0035									

2.	主要な経年デ	ニータ												
	①主要なアウ	トプット(ア	ウトカム)情報				②主要なインプット情報(財務情報及び人員に関する情報、法人全体)注							
	指標等	達成目標	基準値	X1年度	X2年度	X3年度	X4年度	X5年度		H23 年度	H24 年度	H25 年度	H26 年度	H27 年度
									予算額 (千円)	8,682,884	8,967,108	8,532,098	8,493,261	
									決算額 (千円)	9,127,037	8,572,227	8,651,460	9,160,191	
									経常費用 (千円)	8,923,393	8,388,109	8,227,741	8,675,680	
									経常利益 (千円)	8,826,155	8,412,573	8,168,306	8,670,619	
									行政サービス実施コスト (千円)	8,712,060	8,206,327	7,612,425	7,546,420	
									従事人員数	991	981	972	966	
				\		\	\		(うち常勤職員)	(807)	(790)	(785)	(765)	

					正・木切 こ に 発田	していないため、個人主体の	2000年
3.	各事業年度の業務に	係る目標、計画、業務等	実績、年度評価に係る自	己評価及び主務大臣による評価	西		
	中期目標	中期計画	年度計画	主な評価指標	法人の業務実績	• 自己評価	主務大臣による評価
					業務実績	自己評価	
	(ウ) 実験用小型ブタ	(ウ) 実験用小型ブタ	カ 実験用小型ブタにつ	S:計画を大きく上回り、かつ	<主要な業務実績>	<評定と根拠>	評定 B
	について、造成を完了	について、造成を完了	いて、民間等との意見・	顕著な成果が得られた。	実験用小型ブタについて、医科	$\lceil \mathrm{B} floor$	<評定に至った理由>
	した系統の維持及び種	した系統(小型白色	情報交換を行いつつ、造	A:計画を上回る成果が得られ	系大学、民間小型豚生産者、民間	根拠:	計画どおり、実験用小型豚の新たな造成
	豚などの供給業務に重	系:雄5頭・雌20頭	成を完了した系統の維持	た。	実験動物販売者等と飼養管理、衛	・計画どおり実施した。	の中止と造成が終了した系統の維持及び
	点化する。	規模、中型淡色系:雄	及び種豚等の供給を行	B:計画どおり順調に実施され	生管理等について、意見・情報交		種豚等の供給が実施されたことから「B」
		3頭・雌15頭規模、	う。	た。	換等を行った。また、造成を完了		評定とした。
		中型貧毛系:雄3頭・		C:計画どおり実施されず改善	した3系統を維持するとともに種		
		雌15頭規模の系統維		を要する。	豚等を93頭供給し、計画どおり		
		持群)の維持及び種豚		D:計画どおり実施されず当該	実施した。		
		等の供給を行う。また、		業務の廃止を含めた抜本的な			
		新たな系統の造成は行		改善が必要と認められる。			
		わない。					

1. 当事務及び事業に関	する基本情報		
第2-1-(4)	第2 業務の質の向上 1 家畜改良及び飼養管理の改善 (4)	鶏	
業務に関連する政策・施	食料・農業・農村基本計画、鶏の改良増殖目標	当該事業実施に係る根拠	独立行政法人家畜改良センター法第11条第1項第1号、第2号
策			
当該項目の重要度、難易		関連する政策評価・行政事業	行政事業レビューシート事業番号:0028
度		レビュー	行政事業レビューシート事業番号:0035

2	. 主要な経年ラ	データ												
	①主要なアウ	トプット(ア	ウトカム)情報				②主要なインプット情報(財務情報及び人員に関する情報、法人全体)注							
	指標等	達成目標	基準値	X2年度	X3年度	X4年度	X5年度		H23 年度	H24 年度	H25 年度	H26 年度	H27 年度	
									予算額 (千円)	8,682,884	8,967,108	8,532,098	8,493,261	
									決算額 (千円)	9,127,037	8,572,227	8,651,460	9,160,191	
									経常費用 (千円)	8,923,393	8,388,109	8,227,741	8,675,680	
									経常利益 (千円)	8,826,155	8,412,573	8,168,306	8,670,619	
									行政サービス実施コスト(千円)	8,712,060	8,206,327	7,612,425	7,546,420	
									従事人員数	991	981	972	966	
									(うち常勤職員)	(807)	(790)	(785)	(765)	

	は、未切ことに奔山くいないため、仏八王仲の み 値を拘執													
3. 各事業年度の業務に係る	目標、計画、業務実績、年	度評価に係る	自己評価及び主務大臣による評価											
中期目標	中期計画	年度計画	主な評価指標	法人の業務実	績・自己評価	主務大臣による評価								
				業務実績	自己評価									
国際化の進展や長期的な	国際化の進展や長期的な	(4) 鶏	指標=「細項目の項目数×2」(満	□全国的な国産鶏の改良	<評定と根拠>	評定 B								
飼料穀物需給のひっ迫等に	飼料穀物需給のひっ迫等に	<以下略>	点) に対する「各細項目の点数の合計	推進 2/2(B)	$\lceil \mathrm{B} floor$	<評定に至った理由>								
対応するとともに、全国各	対応するとともに、全国各		値」(合計点)の比率	□種鶏開発の重点化	満点:14P(細項目7×	下記のとおり、下位の評価項目である細項目の合計								
地で行われている在来種等	地で行われている在来種等		各細項目の評価点数の区分は以下	2/2(B)	2 P)	点がB評定の判定基準内(満点×8/10≦合計点<								
を利用した特色ある鶏の能	を利用した特色ある鶏の能		のとおりとする。	□卵用鶏の産卵性改良	合計:14 P	12/10) であったため。								
力向上を図るため、飼料利	力向上を図るため、飼料利		S評価:4点、A評価:3点、B評	2/2(B)	14 P/14 P=1.0	満 点:14点(小項目7×2点)								
用性の改良に留意しつつ、	用性の改良に留意しつつ、		価:2点、C評価:1点、D評価:0	□卵用鶏の卵質改良	(10/10)	合計点:15点=2点×6+3点								
卵用鶏の産卵性や肉用鶏の	卵用鶏の産卵性や肉用鶏の		点	2/2(B)		15点/14点=1.07 (10.7/10)								
増体性の改良を推進する。	増体性の改良を推進する。		A:満点×12/10≦合計点	□肉用鶏の増体性改良		□全国的な国産鶏の改良推進 2点(B)								
また、センターが保有する	また、センターが保有する		B:満点×8/10≦合計点<満点×	2/2(B)		□種鶏開発の重点化 2点(B)								
多数の品種・系統を活用し	多数の品種・系統を活用し		1 2/1 0	□肉用鶏の羽装改良		□卵用鶏の産卵性改良 2点(B)								
て、地域における地鶏・銘	て、地域における地鶏・銘		C:満点×5/10≦合計点<満点×	2/2(B)		□卵用鶏の卵質改良 2点(B)								
柄鶏の振興を支援する。こ	柄鶏の振興を支援する。こ		8/1 0	□組合せ検定の実施		□肉用鶏の増体性改良 3点(A)								
のため、以下の取組を行う。	のため、以下の取組を行う。		D:合計点≦満点×5/10	2/2(B)		□肉用鶏の羽装改良 2点(B)								
						□組合せ検定の実施 2点(B)								
						合 計 点15点								

4. その他参考情報			

1. 当事務及び事業に関	する基本情報				
第2-1-(4)-ア	第2 業務の質の向上 1	家畜改良及び飼養管理の改善	(4) €	鶏 ア 全国的な国産鶏の改良丼	能進
業務に関連する政策・施	食料・農業・農村基本計画、	鶏の改良増殖目標		当該事業実施に係る根拠	独立行政法人家畜改良センター法第11条第1項第1号
策					
当該項目の重要度、難易				関連する政策評価・行政事業	行政事業レビューシート事業番号:0028
度				レビュー	行政事業レビューシート事業番号:0035

. 主要な経年ラ	データ													
①主要なアウ	①主要なアウトプット(アウトカム)情報									報(財務情報	及び人員に関	引する情報、法	人全体)注	
指標等	達成目標	基準値	X1年度	X2年度	X3年度	X4年度	X5年度			H23 年度	H24 年度	H25 年度	H26 年度	H27 年度
									予算額 (千円)	8,682,884	8,967,108	8,532,098	8,493,261	
									決算額 (千円)	9,127,037	8,572,227	8,651,460	9,160,191	
									経常費用 (千円)	8,923,393	8,388,109	8,227,741	8,675,680	
									経常利益 (千円)	8,826,155	8,412,573	8,168,306	8,670,619	
									行政サービス実施コスト(千円)	8,712,060	8,206,327	7,612,425	7,546,420	
									従事人員数	991	981	972	966	
			\		\	\			(うち常勤職員)	(807)	(790)	(785)	(765)	

3.	各事業年度の業務に	工係る目標、計画、業務実績、年	度評価に係る自己評価及	び主務大臣による評価			
	中期目標	中期計画	年度計画	主な評価指標	法人の業務実績	• 自己評価	主務大臣による評価
					業務実績	自己評価	
	(ア) 全国的な国産	(ア) 全国的な国産鶏の改良推	ア農林水産省、都道府	S:計画を大きく上回り、	<主要な業務実績>	<評定と根拠>	評定 B
	鶏の改良推進を図る	進を図るため、センターが農林水	県、関係団体、生産者及び	かつ顕著な成果が得られ	農林水産省、都道府県、関	$\lfloor B floor$	<評定に至った理由>
	ため、農林水産省、	産省、都道府県、関係団体、生産	学識経験者の参画を得て、	た。	係団体、生産者及び学識経験	根拠:	農林水産省、都道府県、関係団体、生産
	都道府県、関係団体、	者及び学識経験者を参集して会議	全国的な鶏の改良推進に	A:計画を上回る成果が得	者の参画を得て、全国的な鶏	・計画どおり実施した。	者及び学識経験者が参画した改良推進会議
	生産者及び学識経験	を開催し、我が国における家畜改	関する会議を開催し、セン	られた。	の改良推進に関する会議を開		を開催等全国的な国産鶏の改良推進に取り
	者との意見・情報交	良の方向性に沿ったセンターの業	ターが実施する種鶏の改	B:計画どおり順調に実施	催し、センターが実施する種		組んだことから「B」評定とした。
	換において、積極的	務のあり方について意見・情報交	良等のあり方について意	された。	鶏の改良等のあり方について		
	に指導的役割を果た	換を行い、業務に反映する。また、	見・情報交換を行う。また、	C:計画どおり実施されず	意見・情報交換等を行った。		
	すとともに、都道府	農林水産省、都道府県、関係団体	農林水産省、都道府県、関	改善を要する。	また、関係団体等が開催する		
	県、関係団体などと	等が開催する家畜改良に関する各	係団体等が開催する家畜	D:計画どおり実施されず	家畜改良に関する各種会議に		
	の役割分担の明確化	種会議に積極的に参画し、技術的	改良に関する各種会議に	当該業務の廃止を含めた	積極的に参画し、計画どおり		
	を図る。	助言、連携協力を行う等指導的な	積極的に参画する。	抜本的な改善が必要と認	実施した。		
		役割を果たす。		められる。			

1. 当事務及び事業に関する基本情報		
第2-1-(4)-イ 第2 業務の質の向上 1 家畜改良及び飼養管理の改善 (4)	鶏 イ 種鶏開発の重点化	
業務に関連する政策・施 食料・農業・農村基本計画、鶏の改良増殖目標	当該事業実施に係る根拠	独立行政法人家畜改良センター法第11条第1項第1号、第2号
策		
当該項目の重要度、難易	関連する政策評価・行政事業	行政事業レビューシート事業番号:0028
度	レビュー	行政事業レビューシート事業番号:0035

2. 主要な経年	主要な経年データ													
①主要なアリ	①主要なアウトプット(アウトカム)情報									報(財務情報	及び人員に関	引する情報、法	人全体)注	
指標等	達成目標	基準値	X1年度	X2年度	X3年度	X4年度	X5年度			H23 年度	H24 年度	H25 年度	H26 年度	H27 年度
									予算額 (千円)	8,682,884	8,967,108	8,532,098	8,493,261	
									決算額 (千円)	9,127,037	8,572,227	8,651,460	9,160,191	
									経常費用 (千円)	8,923,393	8,388,109	8,227,741	8,675,680	
									経常利益 (千円)	8,826,155	8,412,573	8,168,306	8,670,619	
									行政サービス実施コスト(千円)	8,712,060	8,206,327	7,612,425	7,546,420	
									従事人員数	991	981	972	966	
			\	\		\			(うち常勤職員)	(807)	(790)	(785)	(765)	

3.	各事業年度の業務に	工係る目標、計画、業務実績	漬、年度評価に係る自己	己評価及び主務大臣による評	価				
	中期目標	中期計画	年度計画	主な評価指標	法人の業務実績・自己評価		主務大臣による評価		
					業務実績	自己評価			
	(イ) 在来種などと	(イ) 在来種等との交配	イ 在来種等との交配	S:計画を大きく上回り、か	<主要な業務実績>	<評定と根拠>	評定 B		
	の交配に適したセン	に適したセンター産種鶏の	に適したセンターの種	つ顕著な成果が得られた。	在来種等との交配に適した	$\lceil \mathbf{B} floor$	<評定に至った理由>		
	ター産種鶏の開発に	開発に取り組み、また、需	鶏について、系統数を	A:計画を上回る成果が得ら	センターの種鶏について、既	根拠:	計画どおり在来種等の交配に適した種鶏の		
	重点化した改良を進	要が見込まれない系統を減	維持する。また、各系	れた。	に開発した系統数を維持し	・計画どおり実施した。	開発等に取り組んだことから「B」評定とした。		
	めるとともに、産卵	らす一方、高い需要のある	統についてウからカの	B:計画どおり順調に実施さ	た。また、各系統について遺				
	性や増体性の向上も	系統を増やすことにより、	取組みにより、飼料利	れた。	伝的能力評価技術、遺伝子解				
	目指す。	生体で維持する系統のうち	用性に留意しつつ、産	C:計画どおり実施されず改	析技術等を活用した取組によ				
		2系統を縮減する。この場	卵性や産肉性の向上に	善を要する。	り、飼料利用性に留意しつつ、				
		合、各系統についてイの取	取り組む。	D:計画どおり実施されず当	卵用鶏の産卵性や肉用鶏の産				
		組みにより、飼料利用性に		該業務の廃止を含めた抜本	肉性の向上に取り組み、計画				
		留意しつつ、産卵性や産肉		的な改善が必要と認められ	どおり実施した。				
		性の向上に取り組む。		る。					

1. 当事務及び事業に関する基本情報		
第2-1-(4)-ウ 第2業務の質の向上 1家畜改良及び飼養管理の改善 (4)	鶏 ウ 卵用鶏の産卵性改良	
業務に関連する政策・施 食料・農業・農村基本計画、鶏の改良増殖目標	当該事業実施に係る根拠	独立行政法人家畜改良センター法第11条第1項第1号
策		
当該項目の重要度、難易	関連する政策評価・行政事業	行政事業レビューシート事業番号:0028
度	レビュー	行政事業レビューシート事業番号:0035

. 主要な経年デ	データ													
①主要なアウ	トプット(ア	ウトカム)情報							②主要なインプット情	報(財務情報	及び人員に関	引する情報、法	人全体)注	
指標等	達成目標	基準値	X1年度	X2年度	X3年度	X4年度	X5年度			H23 年度	H24 年度	H25 年度	H26 年度	H27 年度
									予算額 (千円)	8,682,884	8,967,108	8,532,098	8,493,261	
									決算額 (千円)	9,127,037	8,572,227	8,651,460	9,160,191	
									経常費用 (千円)	8,923,393	8,388,109	8,227,741	8,675,680	
									経常利益 (千円)	8,826,155	8,412,573	8,168,306	8,670,619	
									行政サービス実施コスト(千円)	8,712,060	8,206,327	7,612,425	7,546,420	
									従事人員数	991	981	972	966	
					\				(うち常勤職員)	(807)	(790)	(785)	(765)	
	①主要なアウ		①主要なアウトプット (アウトカム) 情報	①主要なアウトプット(アウトカム)情報	①主要なアウトプット (アウトカム) 情報 指標等 達成目標 基準値 X1年度 X2年度 X3年度 X4年度 X5年度 予算額 (千円) 決算額 (千円) 経常利益 (千円) 行政サービ・ス実施コスト (千円) 従事人員数	①主要なアウトプット (アウトカム) 情報 指標等 達成目標 基準値 X1年度 X2年度 X3年度 X4年度 X5年度 円) 8,682,884 決算額 (千円) 9,127,037 経常費用 (千円) 8,923,393 経常利益 (千円) 8,923,393 経常利益 (千円) 8,712,060 従事人員数 991	①主要なアウトプット (アウトカム) 情報 指標等 達成目標 基準値 X 2 年度 X 3 年度 X 4 年度 X 5 年度 一 一 一 中型 中 中 中 中 中 中 中 中 中 中 中 中 中 中 中	①主要なアウトプット (アウトカム) 情報 指標等 達成目標 基準値 X 2 年度 X 3 年度 X 4 年度 X 5 年度 予算額 (千円) 8,682,884 8,967,108 8,532,098 決算額 (千円) 9,127,037 8,572,227 8,651,460 経常費用 (千円) 8,923,393 8,388,109 8,227,741 経常利益 (千円) 8,826,155 8,412,573 8,168,306 行政サービス実施コスト (千円) 8,712,060 8,206,327 7,612,425 従事人員数 991 981 972	①主要なアウトプット (アウトカム) 情報 指標等 達成目標 基準値 X 2 年度 X 3 年度 X 4 年度 X 5 年度 一方算額(千円) 8,682,884 8,967,108 8,532,098 8,493,261 決算額(千円) 9,127,037 8,572,227 8,651,460 9,160,191 経常費用(千円) 8,923,393 8,388,109 8,227,741 8,675,680 経常利益(千円) 8,826,155 8,412,573 8,168,306 8,670,619 行政サービ*ス実施コスト(千円) 8,712,060 8,206,327 7,512,425 7,546,420 従事人員数 991 981 972 966					

3. 各事業年度の業務に	こ係る目標、計画、業務実績、年度	評価に係る自己評価及び主	三務大臣による評価			
中期目標	中期計画	年度計画	主な評価指標	法人の業務実績	・自己評価	主務大臣による評価
				業務実績	自己評価	
(ア) 卵用鶏の産卵	(ア) 卵用鶏の産卵性を改良する。	ウ 卵用鶏のうち主要白玉	S:計画を大きく上回り、か	<主要な業務実績>	<評定と根拠>	評定 B
性を改良する。特に、	特に、主要白玉系統である白色レグホ	系統(白色レグホーン種)	つ顕著な成果が得られた。	卵用鶏のうち主要白玉系	$\lfloor B floor$	<評定に至った理由>
主要白玉系統につい	ーン種について、1年1サイクルの世	について、1年1サイクル	A:計画を上回る成果が得ら	統(白色レグホーン種)に	根拠:	計画どおり、後期産卵率の育種価の
て、センター産種鶏	代更新により系統造成を行うととも	の世代更新により系統造成	れた。	ついて、1年1サイクルの	・計画どおり実施した。	改善に取り組んだことから「B」評定と
の後期産卵率の育種	に、長期検定手法(検定期間25~5	を行うとともに、長期検定	B:計画どおり順調に実施さ	世代更新により系統造成を		した。
価を概ね5ポイント	9週齢時まで)を活用することによ	手法を活用することによ	れた。	行うとともに、長期検定手		
改善する。また、主	り、センター産種鶏の後期産卵率(4	り、後期産卵率の育種価を	C:計画どおり実施されず改	法を活用することにより、		
要赤玉系統について	4~59週齢時の産卵率)の育種価を	改善する。	善を要する。	後期産卵率の育種価を改善		
は、肉斑の発生率の	概ね5ポイント改善する。また、主要		D:計画どおり実施されず当	し、計画どおり実施した。		
低減などの卵質を改	赤玉系統であるロードアイランドレ		該業務の廃止を含めた抜本			
善する。	ッド種について、遺伝子解析技術を活		的な改善が必要と認められ			
	用し、肉斑の発生率の低減のための選		る。			
	抜を毎年行う。					

1. 当事務及び事業に関する基本情報		
第2-1-(4)-エ 第2 業務の質の向上 1 家畜改良及び飼養管理の改善 (4)	鶏 エ 卵用鶏の卵質改良	
業務に関連する政策・施 食料・農業・農村基本計画、鶏の改良増殖目標	当該事業実施に係る根拠	独立行政法人家畜改良センター法第11条第1項第1号
策		
当該項目の重要度、難易	関連する政策評価・行政事業	行政事業レビューシート事業番号:0028
度	レビュー	行政事業レビューシート事業番号:0035

2.	. 主要な経年データ														
	①主要なアウトプット (アウトカム) 情報									②主要なインプット情	報(財務情報	及び人員に関	する情報、法	人全体)注	
	指標等	達成目標	基準値	X1年度	X2年度	X3年度	X4年度	X5年度			H23 年度	H24 年度	H25 年度	H26 年度	H27 年度
										予算額 (千円)	8,682,884	8,967,108	8,532,098	8,493,261	
										決算額 (千円)	9,127,037	8,572,227	8,651,460	9,160,191	
										経常費用 (千円)	8,923,393	8,388,109	8,227,741	8,675,680	
										経常利益 (千円)	8,826,155	8,412,573	8,168,306	8,670,619	
										行政サービス実施コスト(千円)	8,712,060	8,206,327	7,612,425	7,546,420	
										従事人員数	991	981	972	966	
					\					(うち常勤職員)	(807)	(790)	(785)	(765)	

3.	各事業年度の業務に	に係る目標、計画、業務実績、年月	度評価に係る自己評価	Б及び主務大臣による評	· 在		
	中期目標	中期計画	年度計画	主な評価指標	法人の業務実績・	自己評価	主務大臣による評価
					業務実績	自己評価	
	(ア) 卵用鶏の産卵	(ア) 卵用鶏の産卵性を改良する。特	エ 卵用鶏のうち主	S:計画を大きく上回	<主要な業務実績>	<評定と根拠>	評定 B
	性を改良する。特	に、主要白玉系統である白色レグホー	要赤玉系統(ロード	り、かつ顕著な成果が	卵用鶏のうち主要赤玉系統(ロ	$\lfloor B floor$	<評定に至った理由>
	に、主要白玉系統に	ン種について、1年1サイクルの世代	アイランドレッド	得られた。	ードアイランドレッド種)につい	根拠:	計画どおり、肉斑の発生率低減のための選抜
	ついて、センター産	更新により系統造成を行うとともに、	種)について、肉斑	A:計画を上回る成果が	て、肉斑の発生率の低減のため、	・計画どおり実施した。	が実施されたことから「B」評定とした。
	種鶏の後期産卵率	長期検定手法(検定期間25~59週	の発生率の低減のた	得られた。	遺伝子解析技術を活用するなどに		
	の育種価を概ね5	齢時まで)を活用することにより、セ	め、遺伝子解析技術	B:計画どおり順調に実	より選抜を行い、計画どおり実施		
	ポイント改善する。	ンター産種鶏の後期産卵率(44~5	を活用するなどによ	施された。	した。		
	また、主要赤玉系統	9週齢時の産卵率)の育種価を概ね5	り選抜を行う。	C:計画どおり実施され			
	については、肉斑の	ポイント改善する。また、主要赤玉系		ず改善を要する。			
	発生率の低減など	統であるロードアイランドレッド種		D:計画どおり実施され			
	の卵質を改善する。	について、遺伝子解析技術を活用し、		ず当該業務の廃止を			
		肉斑の発生率の低減のための選抜を		含めた抜本的な改善			
		毎年行う。		が必要と認められる。			

1. 当事務及び事業に関する基本情報		
第2-1-(4)-オ 第2 業務の質の向上 1 家畜改良及び飼養管理の改善 (4)	鶏 オ 肉用鶏の増体性改良	
業務に関連する政策・施 食料・農業・農村基本計画、鶏の改良増殖目標	当該事業実施に係る根拠	独立行政法人家畜改良センター法第11条第1項第1号
策		
当該項目の重要度、難易	関連する政策評価・行政事業	行政事業レビューシート事業番号:0028
度	レビュー	行政事業レビューシート事業番号:0035

2. 主要な経年データ

①主要なアウト	、プット (アウトカム) <i>・</i>	青報					②主要なインプット情	報(財務情報	及び人員に
指標等	達成目標	H23 年度	H24 年度	H25 年度	H26 年度	H27 年度		H23 年度	H24 年度
一次選抜時	平成 27 年度産鶏にお						予算額 (千円)	8,682,884	8,967,1
体重の育種価	いて平成 22 年産鶏に						決算額 (千円)	9,127,037	8,572,2
	比して 150 g 改善						経常費用 (千円)	8,923,393	8,388,1
白色コーニ	同 上	75g程度	0	2 3 2 g	285g		経常利益 (千円)	8,826,155	8,412,5
リッシュ種			程度	程度	程度		行政サービス実施コスト(千円)	8,712,060	8,206,3
赤色コーニ	同 上	60g程度	1 3 9 g	2 2 3 g	292g		従事人員数	991	981
ッシュ種			程度	程度	程度		(うち常勤職員)	(807)	(790)

②主要なインプット情報	報(財務情報	及び人員に関	する情報、法	人全体)注	
	H23 年度	H24 年度	H25 年度	H26 年度	H27 年度
予算額 (千円)	8,682,884	8,967,108	8,532,098	8,493,261	
決算額 (千円)	9,127,037	8,572,227	8,651,460	9,160,191	
経常費用 (千円)	8,923,393	8,388,109	8,227,741	8,675,680	
経常利益 (千円)	8,826,155	8,412,573	8,168,306	8,670,619	
行政サービス実施コスト(千円)	8,712,060	8,206,327	7,612,425	7,546,420	
従事人員数	991	981	972	966	
(うち常勤職員)	(807)	(790)	(785)	(765)	

注:業務ごとに算出していないため、法人全体の数値を掲載

			冶	t:業務ごとに算出していな <i>V</i>	いため、法人全体の	数値を掲載
3. 各事業年度の業務に	こ係る目標、計画、業務実績、年度評	価に係る自己評価及び	主務大臣による評価			
中期目標	中期計画	年度計画	主な評価指標	法人の業務実績・	自己評価	主務大臣による評価
				業務実績	自己評価	
(イ) 肉用鶏の増体	(イ)肉用鶏の増体性を改良する。特に、	オ 肉用鶏のうち主要	指標=一次選抜時体重の育種価	<主要な業務実績>	<評定と根拠>	評定 A
性を改良する。特に、	雄として利用される主要系統である白	雄系統(「はりま」、「た	S:計画の120%以上であり、	肉用鶏のうち主要雄系	$\lceil \mathbf{B} floor$	<評定に至った理由>
雄として利用される	色コーニッシュ種について、6週齢の一	つの」の雄系) につい	かつ、特に優れた成果が認めら	統である白色コーニッシ	根拠:	様々な技術的課題が発生する肉用鶏の増
主要系統について、	次選抜時におけるデータを収集し、遺伝	て、6週齢の一次選抜	れる。	ュ種 (「はりま」の雄系)	・計画どおり実施	体性の改良において当初計画の目標値の2
一次選抜時体重の育	的能力評価による精度の高い選抜手法	時におけるデータを収	A:計画の120%以上	及び赤色コーニッシュ種	した。	倍近い育種価の改善がみられたことから
種価を概ね150g	の活用により、一次選抜時体重の育種価	集し、遺伝的能力評価	B:計画の100%以上、120%	(「たつの」の雄系) につ		「A」評定とした。
改善する。また、遺	を概ね150g改善する。	による精度の高い選抜	未満	いて、6週齢の一次選抜時		
伝子解析技術を活用	また、雌として利用される主要系統に	手法を活用し、一次選	C:計画の80%以上、100%	におけるデータを収集し、		<その他事項>
して、羽色の固定化	ついて、遺伝子解析技術を活用して、羽	抜時体重の育種価を改	未満	遺伝的能力評価による精		センターは、数値目標が設定している項
に取り組む。	色の固定(白色プリマスロック種につい	善する。	D:計画の80%未満、又は業務	度の高い選抜手法を活用		目の全てを「B」と自己評価しているが、
	て他の品種を交配した際にひなの羽色		運営の改善等必要な措置が必要	し、一次選抜時体重の育種		総務省が定めた新しい評価指針では、目標
	が必ず交配した他の品種と同じ羽色と		と認められる。	価を概ね290g改善し、		値に対する達成度合いが 120%以上の項目
	なること)のための選抜を毎年行う。			計画どおり実施した。		は「A」と評価することとなっている。目
						標値の設定水準が適切であり、かつ、3カ
						年度の実績評価と矛盾が生じない評価も項
						目のうち 120%以上の達成度合いが確認さ
						れたものは「A」への格上げを検討すべき。
						(有識者会議委員意見)

1. 当事務及び事業に関	する基本情報			
第2-1-(4)-カ	第2 業務の質の向上 1 家畜改良及び飼養管理の改善	(4)鶏 カ	肉用鶏の羽装改良	
業務に関連する政策・施	食料・農業・農村基本計画、鶏の改良増殖目標	当該事	業実施に係る根拠	独立行政法人家畜改良センター法第11条第1項第1号
策				
当該項目の重要度、難易		関連す	る政策評価・行政事業	行政事業レビューシート事業番号:0028
度		レビュ	<u> </u>	行政事業レビューシート事業番号:0035

2	2. 主要な経年データ														
	①主要なアウトプット(アウトカム)情報								②主要なインプット情報	報(財務情報	及び人員に関	関する情報、法	人全体)注		
	指標等	達成目標	基準値	X1年度	X2年度	X3年度	X4年度	X5年度			H23 年度	H24 年度	H25 年度	H26 年度	H27 年度
										予算額 (千円)	8,682,884	8,967,108	8,532,098	8,493,261	
										決算額 (千円)	9,127,037	8,572,227	8,651,460	9,160,191	
										経常費用 (千円)	8,923,393	8,388,109	8,227,741	8,675,680	
										経常利益 (千円)	8,826,155	8,412,573	8,168,306	8,670,619	
										行政サービス実施コスト (千円)	8,712,060	8,206,327	7,612,425	7,546,420	
										従事人員数	991	981	972	966	
		\				\	\			(うち常勤職員)	(807)	(790)	(785)	(765)	†
										汁, 要数デレア管山1 で	コンカンをみ	ナーク 体の粉荷	されま		

3. 各事業年度の業務に	. 各事業年度の業務に係る目標、計画、業務実績、年度評価に係る自己評価及び主務大臣による評価											
中期目標	中期目標中期計画		主な評価指標	法人の業務実績	・自己評価	主務大臣による評価						
				業務実績	自己評価							
(イ) 肉用鶏の増体	(イ)肉用鶏の増体性を改良する。特に、	カ 肉用鶏のうち主要雌	S:計画を大きく上回り、かつ	<主要な業務実績>	<評定と根拠>	評定 B						
性を改良する。特に、	雄として利用される主要系統である白	系統 (白色プリマスロック	顕著な成果が得られた。	肉用鶏のうち主要雌系統	$\lceil \mathrm{B} floor$	<評定に至った理由>						
雄として利用される	色コーニッシュ種について、6週齢の一	種)について、遺伝子解析	A:計画を上回る成果が得られ	(白色プリマスロック種)	根拠:	計画どおり、交配・選抜が実施さ						
主要系統について、	次選抜時におけるデータを収集し、遺伝	技術を活用し、赤色羽装の	た。	について、遺伝子解析技術	・計画どおり実施した。	れたことから「B」評定とした。						
一次選抜時体重の育	的能力評価による精度の高い選抜手法	鶏と交配した際、その後代	B:計画どおり順調に実施され	を活用し、赤色羽装の鶏と								
種価を概ね150g	の活用により、一次選抜時体重の育種価	が必ず赤色となるよう選	た。	交配した際、その後代が必								
改善する。また、遺	を概ね150g改善する。	抜を行う。	C:計画どおり実施されず改善	ず赤色となるよう選抜を行								
伝子解析技術を活用	また、雌として利用される主要系統に		を要する。	い、計画どおり実施した。								
して、羽色の固定化	ついて、遺伝子解析技術を活用して、羽		D:計画どおり実施されず当該									
に取り組む。	色の固定(白色プリマスロック種につい		業務の廃止を含めた抜本的									
	て他の品種を交配した際にひなの羽色		な改善が必要と認められる。									
	が必ず交配した他の品種と同じ羽色と											
	なること)のための選抜を毎年行う。											

1. 当事務及び事業に関する基本情報										
第2-1-(4)-キ 第2業額	务の質の向上 1 家畜改良及び飼養管理の改善	(4) 鶏	キ 組合せ検定の実施							
業務に関連する政策・施 食料・農	業・農村基本計画、鶏の改良増殖目標		当該事業実施に係る根拠	独立行政法人家畜改良センター法第11条第1項第1号						
策										
当該項目の重要度、難易			関連する政策評価・行政事業	行政事業レビューシート事業番号:0028						
度			レビュー	行政事業レビューシート事業番号:0035						

. 主要な経年データ														
①主要なアウトプット (アウトカム) 情報								②主要なインプット情報(財務情報及び人員に関する情報、法人全体)注						
指標等	達成目標	基準値	X1年度	X2年度	X3年度	X4年度	X5年度			H23 年度	H24 年度	H25 年度	H26 年度	H27 年度
									予算額 (千円)	8,682,884	8,967,108	8,532,098	8,493,261	
									決算額 (千円)	9,127,037	8,572,227	8,651,460	9,160,191	
									経常費用 (千円)	8,923,393	8,388,109	8,227,741	8,675,680	
									経常利益 (千円)	8,826,155	8,412,573	8,168,306	8,670,619	
									行政サービス実施コスト(千円)	8,712,060	8,206,327	7,612,425	7,546,420	
									従事人員数	991	981	972	966	
									(うち常勤職員)	(807)	(790)	(785)	(765)	

3.	3. 各事業年度の業務に係る目標、計画、業務実績、年度評価に係る自己評価及び主務大臣による評価												
	中期目標	中期計画	年度計画	主な評価指標	法人の業務実施	績・自己評価	主務大臣による評価						
					業務実績	自己評価							
	(ウ) 多様な品種・	(ウ) 地鶏・銘柄鶏の生	キ 地鶏・銘柄鶏の生	S:計画を大きく上回	<主要な業務実績>	<評定と根拠>	評定 B						
	系統を用いた組合せ	産を支援するため、多様な	産を支援するため、セ	り、かつ顕著な成果	地鶏・銘柄鶏の生産を支	$\lceil B floor$	<評定に至った理由>						
	評価を行い、地鶏・	品種・系統を用いた組合せ	ンターが保有する在	が得られた。	援するため、センターが保	根拠:	計画どおり、組合せ検定等が実施されたことから「B」						
	銘柄鶏の生産に対す	検定について、平成24年	来種等を利用して組	A:計画を上回る成果	有する在来種等を利用して	・計画どおり実施した。	評定とした。						
	る支援を行う。	度末までに組合せ検定の実	合せ検定を行い、育成	が得られた。	2組の組合せ検定を行い、								
		施のための条件を整備し、	成績、産卵成績等を公	B:計画どおり順調に	育成成績、産卵成績等を公								
		及び都道府県・民間の在来	表する。	実施された。	表し、計画どおり実施した。								
		種の組合せに関するニーズ		C:計画どおり実施さ									
		を踏まえ、平成25年度か		れず改善を要する。									
		らセンターが保有する概ね		D:計画どおり実施さ									
		9系統の在来種等を利用し		れず当該業務の廃止									
		て組合せ検定を行う。		を含めた抜本的な改									
				善が必要と認められ									
				る。									